

第1章 観光をとりまく状況と課題

1 糸満市の上位計画における観光の位置づけ

本計画の策定にあたり、市の上位計画及び関連計画等との関係を以下に整理します。

第4次糸満市総合計画

将来像「つながりの豊かなまち」をもとに、観光の分野としては、「働きのつながるまち」として①**観光資源の保全と活用**、②**滞在型観光の推進**、③**南部地域の連携による観光振興**を位置づける。



観光の分野における考え方を踏襲するとともに、市民文化の振興や森・川・海が連鎖する自然環境の保全、活用、各種産業との連携と情報の発信、平和の推進など関連分野を包含する計画とする。

沖縄振興特別推進交付金（一括交付金）

「糸満が一番パッケージ」として観光の振興については①**糸満市まるごと博物館**、②**アマチュアスポーツのメッカ**、③**糸満市まるごとスマート化**、④**観光客が安心して訪れるまち**、⑤**誘客宣伝・受け入れ体制の整備**を位置づけ、「誰もが訪れたくなるまち」を目指す。



沖縄振興特別推進交付金（一括交付金）での推進事業を、計画に位置づけることで、より、体系的に観光推進を図ることができる計画とする。

糸満市文化交流・情報発信拠点整備基本計画

糸満市文化・平和・観光振興センター管理運営基本計画

地域資源を活かした観光客の誘客及び地域活性化、文化や平和の発信、多様な事業や活動を通じた人材育成などを推進する拠点施設の整備についての計画。



当該施設の整備・活用について、本計画において位置づける。

糸満市戦争遺構保全・活用整備事業（基本計画）

市内に点在する戦争遺構についてのその活用や整備、平和観光のあり方を検討している。



当該計画書の事項と本計画との整合を図る。

糸満市風景づくり計画

「糸満人の誇りとともに、ひかり、みどり、いのりをつなぐ風景づくり」を実現するための計画。**重点地区として、市街地エリア、国道331号沿道地区とジョーグワ地区を位置づけている。**



観光地域としての魅力的な空間形成として、当該計画で推進する糸満らしい風景づくりを位置づけ、風景づくりの更なる推進を図る。

糸満市都市マスタープラン

「歴史と文化豊かなまちづくり（ふるさと薫るまちづくり）」を将来像として、**個性ある市街地の整備と中地区港周辺の整備、南山城跡を中心とした歴史ある緑豊かなまちづくり**などを位置づけている。



各地区の整備の方針、市街化調整区域での土地利用のルール、道路交通、公園緑地、河川下水道、防災、自然環境保全及び景観形成、地域別構想をふまえたまちづくりの方向性を継承する。

第3次糸満市水産業振興基本計画

基本施策に位置づけられる「海やからのまちづくり」において、**漁業のまちの歴史・文化の保全活用、観光漁業の推進**が示されている。また、**漁港の整備、地方卸売市場の再開、水産物の流通・加工業の振興等**、水産業を活かした観光振興に関連する事業が位置づけられている。



漁業のまちの歴史・文化の保全活用や観光漁業の推進に加えて、観光に対応する漁港や卸売市場機能再編、それに伴う水産物の流通・加工業の振興等、観光に関連する事業展開の推進を計画にて位置づける。

ポイント：地域の資源の保全活用や整備、滞在型観光、まるごと博物館や糸満らしい風景づくり、戦争遺構の活用や漁業のまちの歴史文化の保全活用など、**地域にある価値を見出し観光振興につなげることを基軸とする方向性を踏襲**します。

2 国・県・周辺市町の観光振興の位置づけ

本計画の策定にあたり、国・県・周辺市町の観光振興の位置づけとの関係を以下に整理します。

観光立国推進基本計画

観光の裾野の拡大と観光の質の向上が必要との認識にて、①国内外から選好される魅力ある観光地域づくり（観光地域のブランド化・複数地域間の広域連携等）、②オールジャパンによる訪日プロモーションの実施、③国際会議等のMICE分野の国際競争力強化、④休暇改革の推進を講ずべき施策として位置づけている。

外国人観光客が来訪しやすい環境の整備や、地域のポテンシャルを十分に活かした観光地域づくり、特に地域の幅広い関係者が参画・協働する取り組みの重要性を、本計画においても位置づける。

沖縄振興特別措置法

観光の振興として、観光地形成促進地域を創設、通訳案内士の特例を創設、エコツーリズム協定制度の継続等を記載。また、文化の振興等として、地域文化の振興に関する配慮規定を継続、良好な景観の形成、自然環境の保全及び再生に関する努力義務規定を創設、等について位置づけている。

地域文化の振興、良好な景観の形成、自然環境の保全及び再生等について、本計画においても位置づける。

沖縄県観光危機管理基本計画

観光客の安全・安心が守られる観光地の形成を図るため、観光産業に負の影響を与える観光危機（自然・人的災害、健康・環境危機等）に関して、危機管理の基本的な対応を定めている。

本市における観光危機管理計画等の策定、計画に基づく訓練の実施を位置づける。

沖縄21世紀ビジョン

県民の意見を集約した沖縄の将来像として、「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島」、「希望と活力にあふれる豊かな島」、「世界に開かれた交流と共生の島」などが位置づけられている。

ビジョンに示されている**伝統文化・芸術、地域産業振興、平和発信**などの取り組みを具体的に推進するため、本計画においても、当該内容を踏襲する。

基本計画

沖縄21世紀ビジョンの実現に向けた基本方向や基本施策を明らかにしている。

施策展開の中に示されている、**沖縄らしい風景づくり、まちづくりにおけるユニバーサルデザインの推進、市場特性に対応した誘客活動の展開、観光客の受け入れ体制の整備、産業間連携の強化、商店街・中心市街地の活性化と商業の振興**などを具体的に本計画に位置づける。

実施計画

基本計画の着実な推進のために策定。

当該計画に位置づける、**那覇空港自動車道の整備、水産物流通基盤整備事業、水産海洋研究センター移転整備事業、平和祈念資料館事業、新市場開設推進事業等関連事業**を本市の観光振興に活かすよう位置づける。

沖縄県観光振興計画（第5次）

将来像「世界水準の観光リゾート地」のもと、将来像実現の核となる3要素として、①島の海・森・生物多様性－自然－②島の歴史・文化芸能－文化－③島の安全・安心・快適性－人・環境－を位置づけ。

多様で魅力ある観光体験の提供、基盤となる旅行環境の整備、観光産業の安定的確保、効果的なマーケティング、推進体制の再構築の方向性を本計画で整理。

圏域別における施策は、地域特性をふまえながら展開すると位置づけ。南部圏域については以下。

- ・西海岸地域においては、リゾート及び都市型ホテルや飲食・ショッピング、コンベンション、マリーナ・人工ビーチ、レクリエーション施設等の集積を活かしつつ、諸外国や県内外との交流拠点の形成を目指し、施設の充実及び受入体制の強化を促進
- ・琉球王国のグスク及び関連遺産群や自然及び文化を生かした体験・滞在型観光等、地域産業と密接に連携した新たな観光スタイルの創出を図るとともに、南部各地で開催されるスポーツ大会、各種イベント等の充実

基本的な方向として当該内容を推進。

周辺市町（豊見城市、八重瀬町、南城市、南風原町、与那原町）における観光振興の位置づけ上、連携・補完の可能性のある事項

- 豊見城市：南部広域市町との連携による教育旅行や民泊といった体験活動の受け入れ、南部広域による観光情報の提供
- 八重瀬町：周辺市町との連携したPRの実施、合同イベントの開催、南部観光の移動手段の検討
- 南 城 市：久高島や斎場御嶽、おきなわワールド文化王国・玉泉洞といった来訪者の多い拠点を強みとして活かす南城ブランドの確立を位置づけ
- 南風原町：沖縄陸軍病院南風原壕群 20 号等戦跡・平和学習ゾーンの形成、南部広域での体験活動の受け入れ、観光情報の共有と発信、広域的な観光プログラム開発
- 与那原町：海洋レクリエーションの拠点づくり、南部地域の広域的連携による観光・教育旅行等の誘致及び体験型観光の整備・開発推進を位置づけ、大型MICE施設の整備（与那原町、西原町）

教育旅行や民泊といった体験活動の受け入れ、観光情報の提供については各市町でも広域連携を位置づけており、本計画においても周辺市町との連携推進を位置づけ。

戦跡・平和学習拠点の連携、海洋レクリエーション施設の連携、集客力の高い拠点施設等と本市の観光施設等との連携による周遊プログラム構築について検討を進める。

与那原・西原に整備予定の大型MICEに関連して、本市にて整備予定の文化・平和・観光振興センターでの中小規模のMICEイベント、アフターコンベンションとしての糸満市での滞在の促進の可能性を本計画にて位置づけ。

ポイント：観光の裾野の拡大と観光の質の向上という基本的な方向性にのっとり、沖縄 21 世紀ビジョンで示される伝統文化・芸術、地域産業振興や平和発信という主題を中心に、各計画で示される事業の方向性に則った計画とします。

また、**そのためのマーケティング・推進体制の再構築や地域産業と密接に連携した観光スタイルの創出などの施策を推進**します。

なお、南部広域連携として、周辺市町との補完による観光資源・プログラムの魅力化や、大型MICE施設整備を契機とした新たな人の流れの創出についても、本計画において位置づけます。

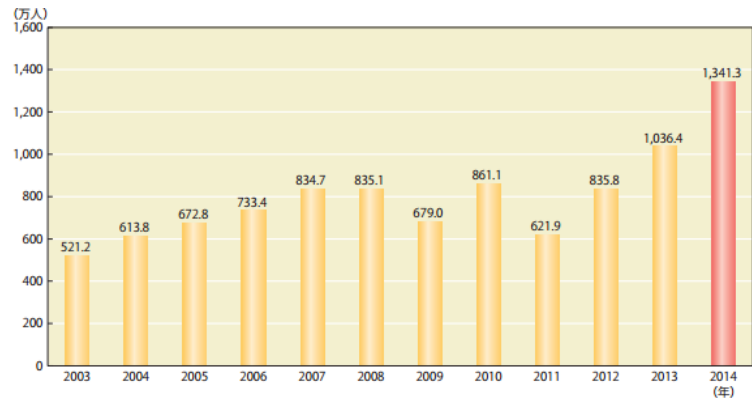
3 国・県の観光の現状

国および沖縄県の観光の現状について以下に整理します。

(1) 全国的な動向

◆訪日外国人旅行者数の増加

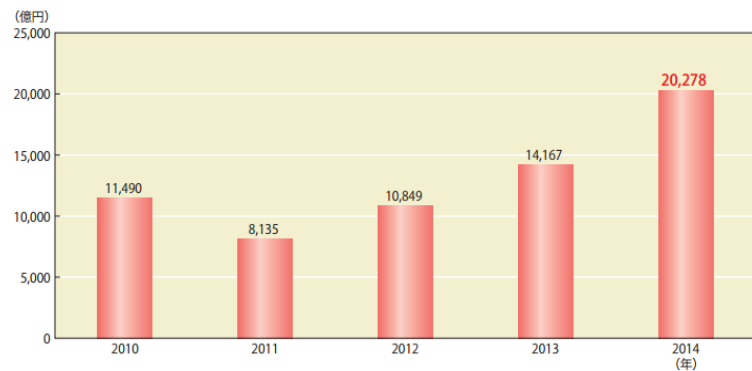
2014年(平成26年)の訪日外国人旅行者数は、初めて年間1,000万人を突破した前年をさらに上回り、1,341万人(対前年比29.4%増)となり、2年連続で過去最高を更新しました。



(注) 日本政府観光局(JNTO) 資料をもとに観光庁作成

◆訪日外国人旅行者による消費の増加

訪日外国人旅行者による日本国内における消費額は、2012年(平成24年)から2014年(平成26年)で急拡大し、2014年(平成26年)には2兆278億円となり2兆円の大台を超えました。

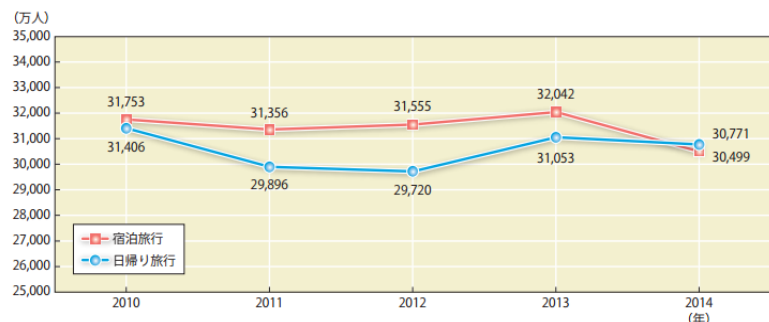


(注) 1 観光庁「訪日外国人消費動向調査」による。

2 2010年については同年1-3月期に調査を実施していないことから、同年4-12月期の平均値を代用して算出している。

◆国内宿泊観光旅行延べ人数、国内日帰り観光旅行延べ人数 3 億人超

国内宿泊旅行に行った延べ人数の推移は、外国人のように変化はありません。2014年(平成26年)は延べ3億499万人、国内日帰り旅行は延べ3億771万人となりました。

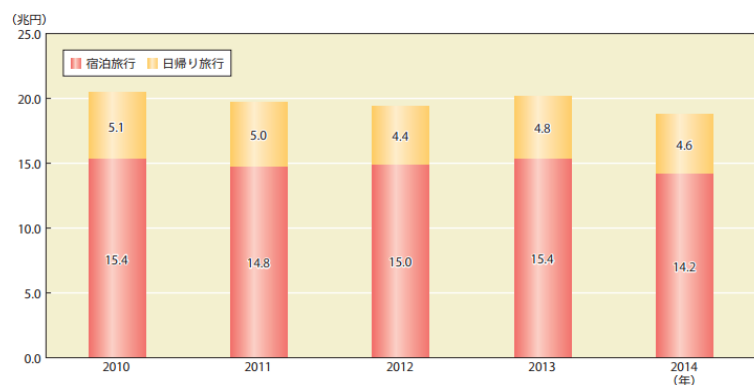


(注) 1 観光庁「旅行・観光消費動向調査」による。

2 2014年(平成26年)は速報値。

◆国内旅行消費額は 18.8 兆円

国内旅行消費額については、2013年(平成25年)は増加したものの、2014年(平成26年)は6.8%減少し18.8兆円でありました。

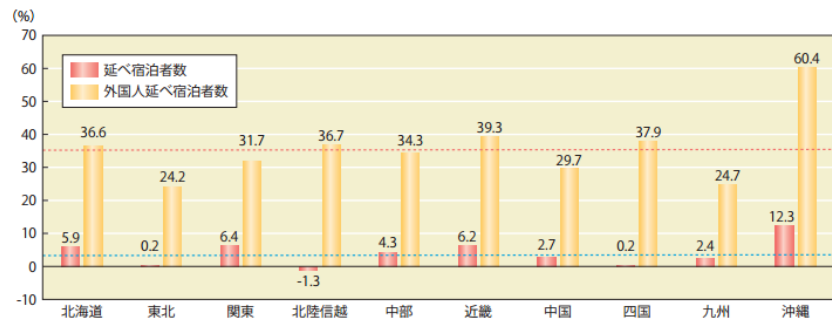


(注) 1 観光庁「旅行・観光消費動向調査」による。

2 2014年(平成26年)は速報値。

◆沖縄の延べ宿泊者数、外国人延べ宿泊者数の伸び率は60.4%

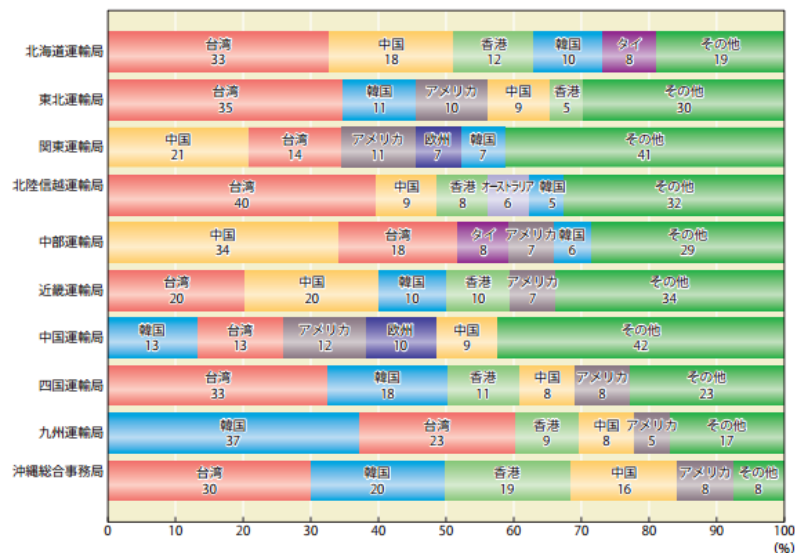
2011年（平成23年）から2014年（平成26年）までの3年間の平均年伸び率は、沖縄（12.3%）、関東地方（6.4%）、近畿地方（6.2%）が上位を占める一方で、北陸信越地方は-1.3%となりました。外国人延べ宿泊者数については、すべての地方で20%以上の大きな伸び率を示しているが、特に沖縄が60.4%の著しい伸びを示しています。



(注) 1 観光庁「宿泊旅行統計調査」による。
2 2014年(平成26年)は速報値。

◆沖縄県の外国人延べ宿泊者は、台湾・韓国・香港・中国・アメリカの順

2014年（平成26年）における地方ブロック別外国人延べ宿泊者については、北海道、東北、北陸信越、近畿、四国、沖縄は台湾からの宿泊者が、九州、中国は韓国からの宿泊者が多く、関東、中部は中国からの宿泊者が多い状況です。



(注) 1 観光庁「宿泊旅行統計調査」による。
2 欧州はドイツ・英国・フランスの3カ国

ポイント：訪日外国人旅行者数は全国的に増加の傾向にあり、同時に訪日外国人旅行者による消費の増加は著しい状況にあります。また、国内においては、横ばいながら宿泊観光旅行、日帰り観光旅行ともに延べ3億人超、その消費額は18.8兆円の規模となります。

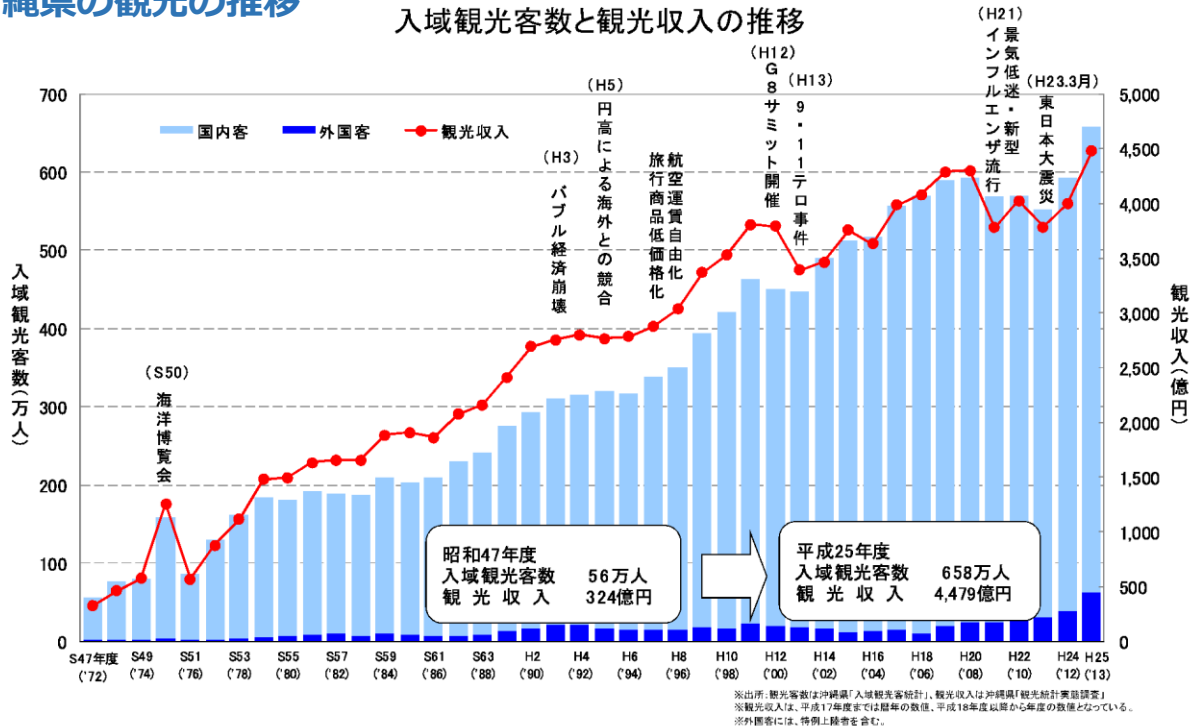
沖縄の延べ宿泊者数、外国人延べ宿泊者数の伸びは全国的にみても突出しており、特に外国人は伸び率60%強。その内訳は台湾・韓国・香港・中国・アメリカと周辺アジア諸国からの来訪者で8割強を占めます。

本市の観光においても、外国人旅行者の増加に対応する方策を打つことで、観光産業および周辺産業の活性化の可能性が非常に高い状況にあります。

(2) 沖縄県の観光の動向

◆沖縄県の観光の推移

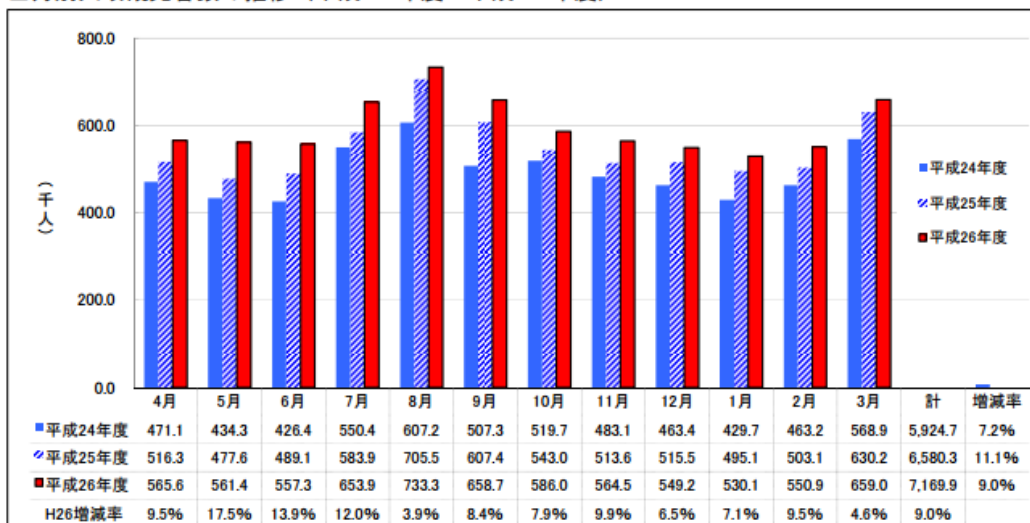
入域観光客数と観光収入の推移



◆戦後～ 本土復帰	慰霊訪問団 (墓参観光) が中心	・日本本土から沖縄への旅行にはパスポートが必要であった。 ・沖縄本土復帰（昭和47年5月）
◆本土復帰～ 1970年代	海洋博を契機として、 沖縄が観光地として定着	・沖縄国際海洋博覧会開催（昭和50年7月） ・団体包括割引運賃制度開始（昭和52年～） ・航空会社が本格的な沖縄キャンペーン開始（昭和52年～）
◆1980年代	リゾートホテルの開業相次ぐ	・第2次オイルショック（昭和54年）や円高不況（昭和58年～62年頃）の影響を受けながらも、緩やかに観光客数増加 ・昭和62年に施行された総合保養地域整備法によるリゾートブーム
◆1990年代	バブル景気後の伸び悩み 期を経て、航空運賃の自由化や旅行商品の低価格化が進展したことにより急激に観光客数増加	・バブル経済崩壊（平成3年）→平成不況 ・首里城公園開園（平成4年） ・急激な円高による海外との競合（平成5年） ・1990年代後半頃から沖縄出身アーティストが躍進。沖縄への注目高まる。
◆2000年代	世界情勢の影響を受けながらも、沖縄人気が定着	・沖縄県において「九州・沖縄サミット首脳会合」開催（平成12年） ・NHK「ちゅらさん」放映開始（平成13年） ・9.11 アメリカ同時多発テロ事件の影響による風評被害 →「だいじょうぶさー沖縄」キャンペーン実施（平成13年） ・「沖縄美ら海水族館」リニューアルオープン（平成14年） ・SARS拡大、イラク戦争勃発。（平成15年） ・沖縄都市モノレール「ゆいレール」開業（平成15年） ・沖縄型特定免税店「DFSギャラリア・沖縄」オープン（平成16年） ・米州開発銀行（IDB）等年次総会開催（平成17年） ・本土復帰後の累計入域観光客数が1億人を突破（平成19年） ・金融危機後の世界的な景気後退の影響を受ける。（平成20～21年） ・新型インフルエンザの世界的流行（平成21年）
◆2010年代	回復の兆しから世界的な 景気低迷、円高、各地の 災害等厳しい状況の中での 施策展開	・美ら島沖縄総体2010開催（平成22年） ・東日本大震災の発生（平成23年） ・中国人観光客への数次ビザ発給開始（平成23年） ・本土復帰40周年（平成24年） ・新石垣空港「南ぬ島石垣空港」開港（平成25年） ・那覇空港「新国際線旅客ターミナルビル」供用開始（平成26年） ・慶良間諸島が国立公園に指定（慶良間諸島国立公園）（平成26年） ・那覇港泊ふ頭若狭バース「那覇クルーズターミナル」供用開始（平成26年）

◆観光客数等状況 平成26年度の観光客数は716万9,900人
前年度比+58万9,600人（+9.0%）

■月別入域観光客数の推移（平成24年度～平成26年度）



（沖縄県資料）

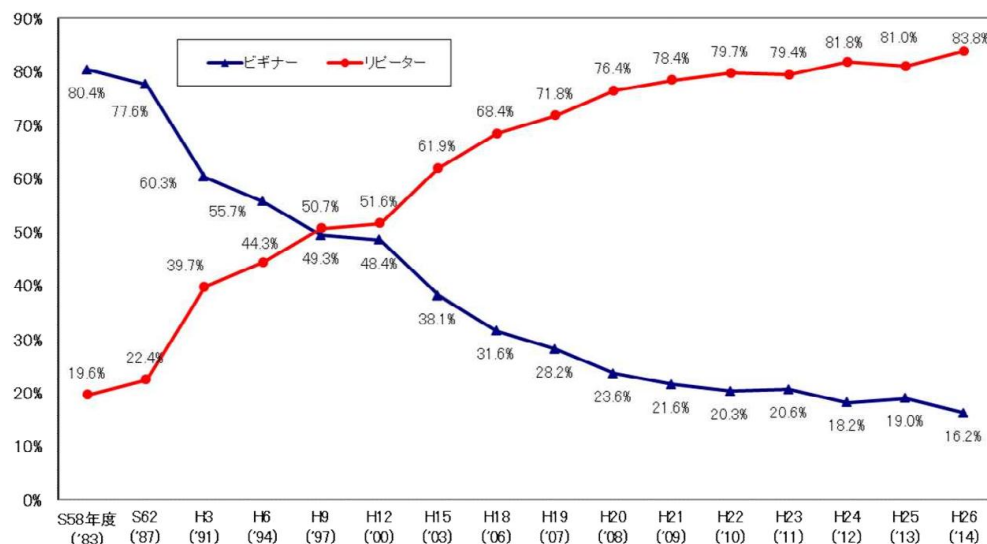
◆修学旅行入込状況 平成17年からは2,500校程度、40～50万人で推移



（沖縄県資料）

◆初回訪問率 16.2%、リピーター率 83.8%
平成9年にリピーター率が初回訪問率を上回り、上げ止まりの状況

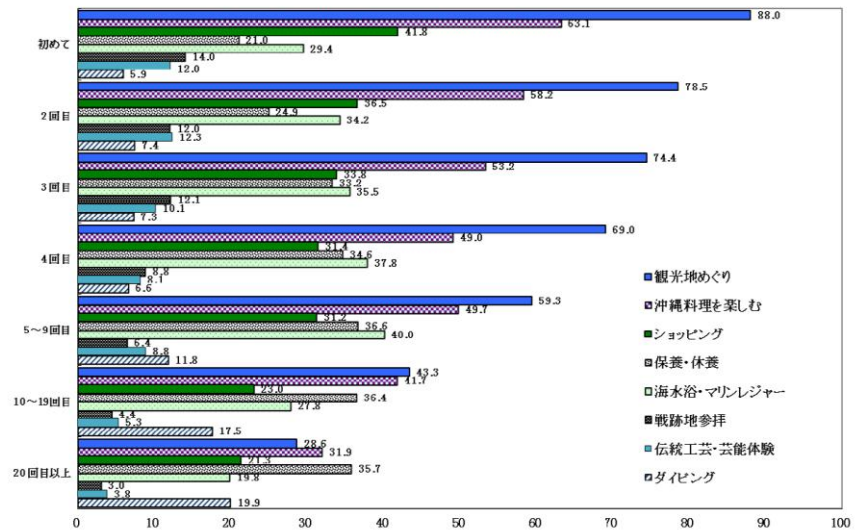
初回来訪率とリピーター率の推移



◆旅行中の活動内容

訪問回数の増加に伴い、観光地巡りから保養休養へ移行

訪問回数別にみた旅行中の活動内容

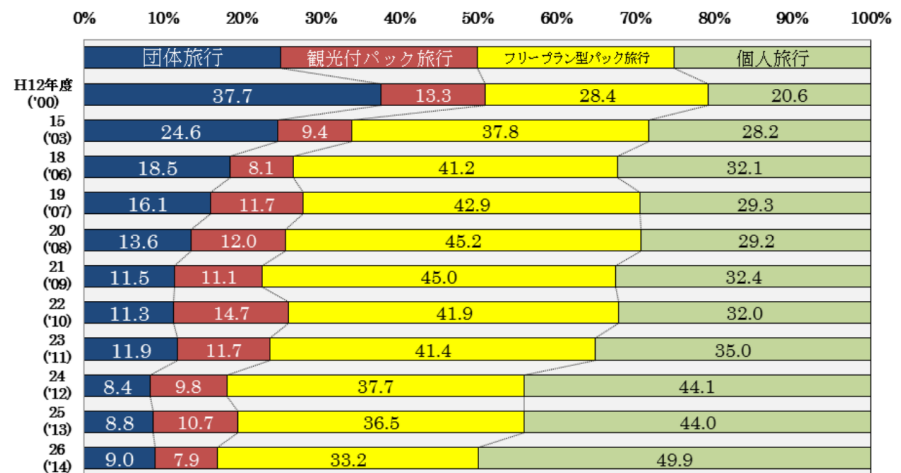


※出所：沖縄県「平成26年度観光統計実態調査」(会議、研修、仕事、帰省・親戚訪問を除く上位8項目) (※)

◆旅行形態の推移

個人旅行およびフリープラン型パック旅行が大半を占める

旅行形態の推移

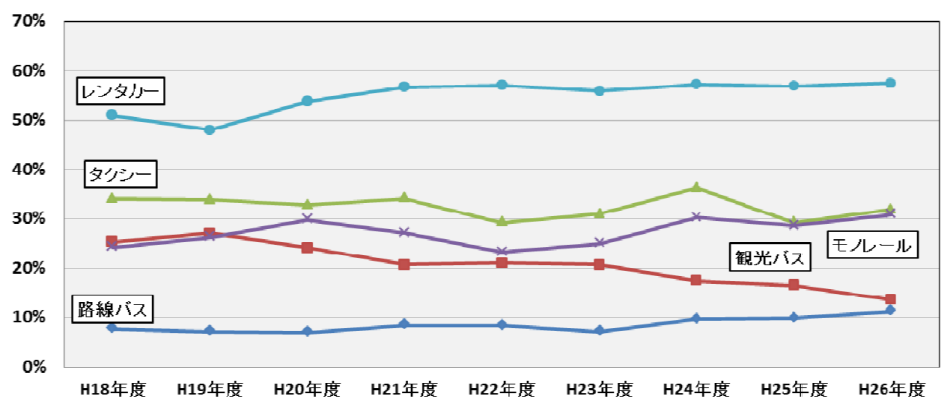


※出所：沖縄県「観光統計実態調査」(H12年度、H15年度、H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値)

◆沖縄滞在中に利用した交通手段

レンタカーが6割弱、観光バスは1割5分程度

沖縄県滞在中に利用した交通手段(主要交通手段の利用状況推移)



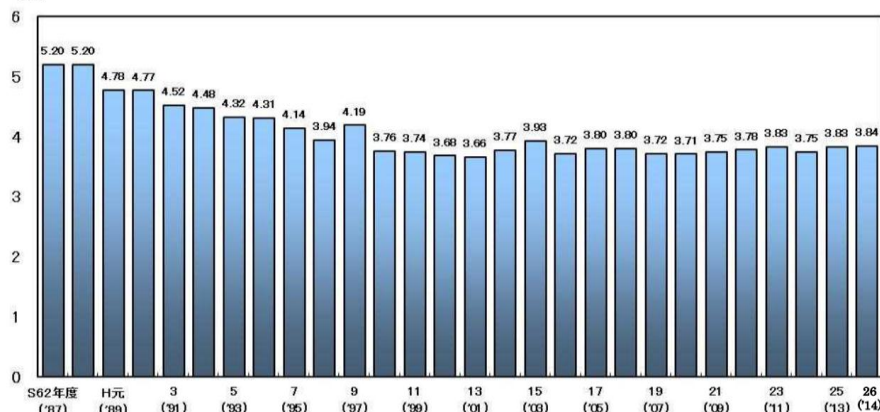
※出所：沖縄県「観光統計実態調査」

◆平均滞在日数

滞在日数は平均 3.84 日、2泊3日が約 37%と最も多い

平均滞在日数の推移

(日)



※出所：沖縄県「観光統計実態調査」
 ※H15年度、H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値

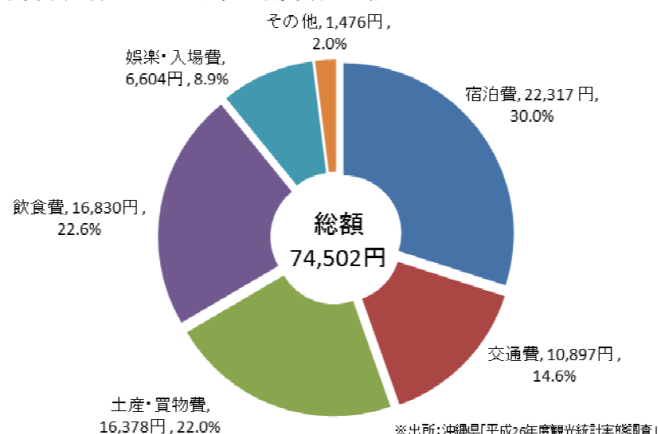
平均滞在日数別内訳

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
日帰り(1日)	1.2%	0.0%	0.7%	0.6%	0.4%	0.7%	0.5%	0.7%	0.6%
1泊2日(2日)	12.1%	11.1%	11.3%	11.6%	9.1%	12.2%	13.9%	13.7%	14.5%
2泊3日(3日)	41.3%	43.0%	41.2%	40.7%	39.1%	37.1%	38.4%	37.6%	36.7%
3泊4日(4日)	29.3%	31.4%	30.5%	30.7%	31.9%	29.7%	28.3%	27.6%	27.3%
4泊5日(5日)	9.2%	8.7%	9.6%	9.8%	13.0%	12.2%	11.1%	12.0%	11.7%
5泊6日(6日)	2.3%	2.0%	2.7%	2.8%	3.0%	3.2%	3.5%	3.9%	3.7%
6泊7日(7日)	1.2%	1.1%	1.8%	1.2%	1.3%	1.5%	1.4%	1.4%	2.2%
7泊以上(8日以上)	3.4%	2.6%	2.3%	2.5%	2.2%	3.4%	2.9%	3.2%	3.3%

※出所：沖縄県「観光統計実態調査」(H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値)

◆観光客一人当たり消費額 消費額は平均約 74,500 円、前年に比べて増加

平成 26 年度観光客一人当たり県内消費額の内訳



※出所：沖縄県「平成26年度観光統計実態調査」

ポイント：近年は旅行者の増加は著しく、特に外国人旅行者の増加への対応は喫緊の課題です。

沖縄観光の特徴の一つである修学旅行入込については、近年は 2,500 校程度、40～50 万人で推移する一方で、リピーター率は約 84%と高い割合を示します。訪問回数が増加するにともない、観光地巡りから保養休養に活動内容が変化し、また旅行形態については個人旅行およびフリープラン型パック旅行が大半を占める状況にあります。移動手段はレンタカーが最も多い状況です。さらに、平均滞在日数は 3.84 日、2泊3日が最も多く、次いで3泊4日、消費額は平均約 74,500 円という状況です。

これらの動向への対応として、特にレンタカー移動者への情報や、リピーターを満足させる魅力ある観光プログラムや情報の提供、2泊～3泊での滞在対応したプログラムや効率的な移動手段の確保検討が必要となります。

4 糸満市の観光の現状

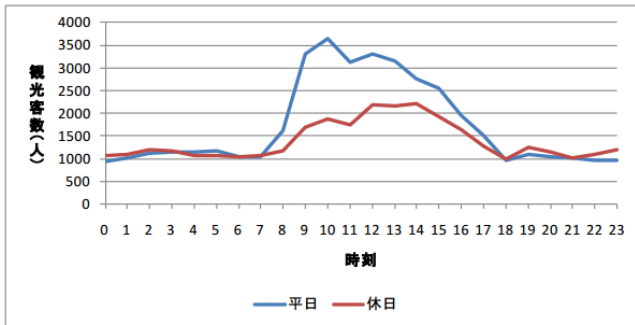
糸満市の観光動向、観光資源、市民や市内事業者、来訪者の観光に関する意向等について以下に整理します。

(1) 糸満市の観光動向

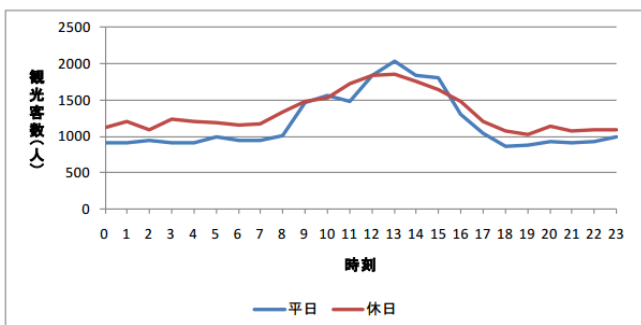
◆県外観光客数の時間推移

夜間に比べ、昼間の観光客が多い状況です。特に10月の平日は修学旅行の影響から観光客数が非常に多い状況です。

10月の県外観光客数の時間推移



1月の県外観光客数の時間推移



(沖縄県資料 平成25年3月 戦略的リピーター創造事業報告書)

◆主要観光施設の入込客数

主要施設宿泊者数や美々ビーチの入園者数はおおむね横ばい傾向にある中で、沖縄県平和祈念資料館、ひめゆり平和祈念資料館では減少傾向にあります。

単位：人

	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
美々ビーチいとまん入園者数	442,225	390,412	454,403	456,215	396,696
糸満市観光農園入園者数	152,026	167,623	144,414	125,367	—
沖縄平和祈念堂入館者数	78,549	80,530	74,584	78,323	75,108
沖縄県平和祈念資料館入館者数	396,230	391,632	367,555	375,411	362,092
ひめゆり平和祈念資料館入館者数	694,162	673,799	662,956	660,374	629,440
計	1,763,192	1,703,996	1,703,912	1,695,690	1,463,336
市内主要施設宿泊者数	301,665	296,830	308,807	245,035	280,951

(糸満市資料)

※宿泊者数は延べ人数とする

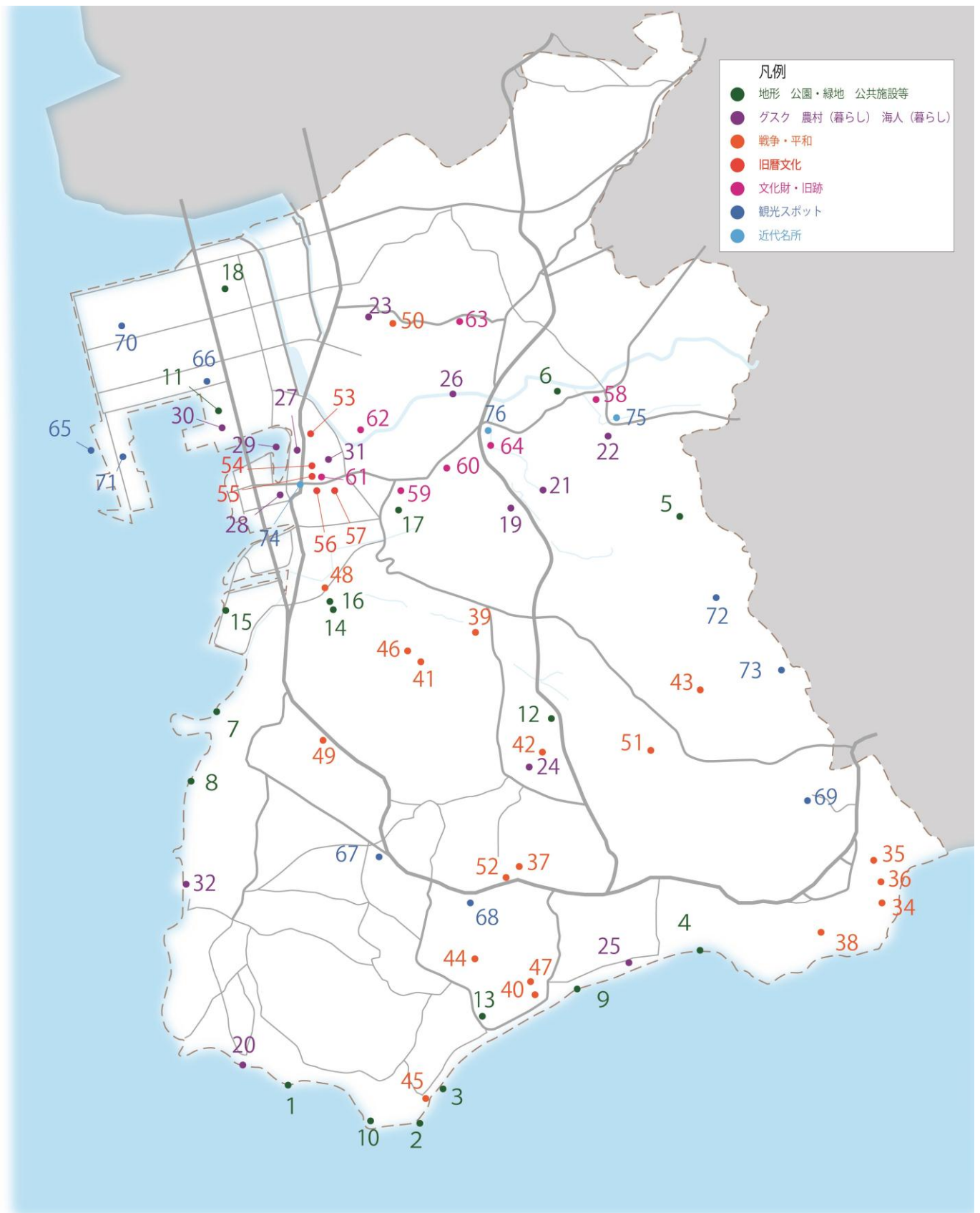


(2) 糸満市の観光資源概要

◆資源一覧

ジャンル	資源名
地形	1 喜屋武岬 2 喜屋武・荒崎海岸 3 山城ウリグチ 4 大度浜海岸 5 与座岳 6 報得川 7 北名城ビーチ 8 名城ビーチ 9 米須山城海岸 10 カサカンジャー
公園・緑地	11 海のふるさと公園 12 真壁公園・真壁宮 13 沖縄県平和創造の森公園 14 ロンドン杜公園 15 南浜公園
公共施設等	16 糸満市立中央図書館 17 生涯学習支援センター 18 糸満市西崎運動公園
グスク	19 南山城跡 20 具志川城跡 21 集落毎のグスク
農村（暮らし）	21 嘉手志川 22 与座川 23 潮平ガ－ 24 金城増治家住宅 25 米須貝塚 26 報得橋
海人（暮らし）	27 ジョ－グワ－ 28 糸満市中央市場 19 糸満漁港 30 糸満海人工房・資料館 31 字糸満の上之平などの街並み 32 喜屋武漁港 33 ミーカガン
戦争・平和	34 平和の礎 35 平和祈念堂 36 沖縄県平和祈念資料館 37 ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館 38 沖縄師範健児之塔 39 白梅の塔 40 魂魄の塔 41 栄里の塔 42 萬華之塔 43 南北之塔 44 沖縄陸軍病院之塔 45 ひめゆり学徒散華の跡 46 バックナー中将戦死之跡 47 沖縄菩提樹苑 48 真栄里アミヤ原の特攻艇掩体壕 49 轟の壕 50 潮平権現壕 51 クラガ－ 52 伊原第一外科壕
旧暦文化	53 白銀堂 54 山巔毛 55 アジバカ 56 キミガメー 57 幸地腹・赤比儀腹両門中墓
文化財・旧跡	58 旧高嶺製糖工場跡 59 旧竜翔寺の梵鐘 60 照屋の石獅子 61 田名宗経謹刻の仏像 62 大城家 63 字座波・賀数所有の龜 64 和解名森
観光スポット	65 美々ビーチいとまん 66 道の駅いとまん 67 琉球ガラス村 68 琉球漆器 69 糸満市観光農園（うちなーファーム） 70 まさひろ酒造 71 サザンビーチホテル&リゾート沖縄 72 パームヒルズゴルフリゾート 73 南山カントリークラブ
近代名所	74 糸満ロータリー 75 沖縄県営鉄道高嶺駅跡 76 軽便鉄道コンクリート橋遺構
行事・祭事	77 旧正月 78 シマー 79 シマクサラシ 80 二月ウチー・三月ウチー 81 ピーリンボーリン 82 糸満ハーレー、他ハーリー 83 糸満大綱引、他綱引 84 五月ウチー・六月ウチー 85 エイサー 86 ウシデーク 87 棒巻き 88 獅子舞 89 ティラムヌメー 90 ビービルムヌメー 91 ジョーアキ 92 チリタンチョウ
イベント	93 いとまんピースフルイルミネーション 94 なんぶトリムマラソン 95 糸満市平和祈念祭 96 糸満ふるさと祭りエイサーin いとまん 97 沖縄爬龍舟フェスティバル 98 南部豊かな海づくり大会 99 報得川タマン祭り 100 糸満市長杯サーフィンコンテスト 101 帆掛サバニ走らせー大会 102 摩文仁・火と鐘のまつり
人物	103 他魯毎 104 承察度 105 汪応祖 106 ジョン万次郎 107 玉城保太郎 108 源為朝
食・食文化	109 かまぼこ（バカダ） 110 蚕豆味噌 111 イチマンドーフ 112 カントーフ（焼き豆腐） 113 クジムチ（葛餅） 114 ターンム田楽
農畜水産物 （拠点産地認定 品目）	115 ニンジン 116 レタス 117 ゴーヤ 118 小ギク 119 パッションフルーツ 120 肉用牛（子牛） 121 ソデイカ

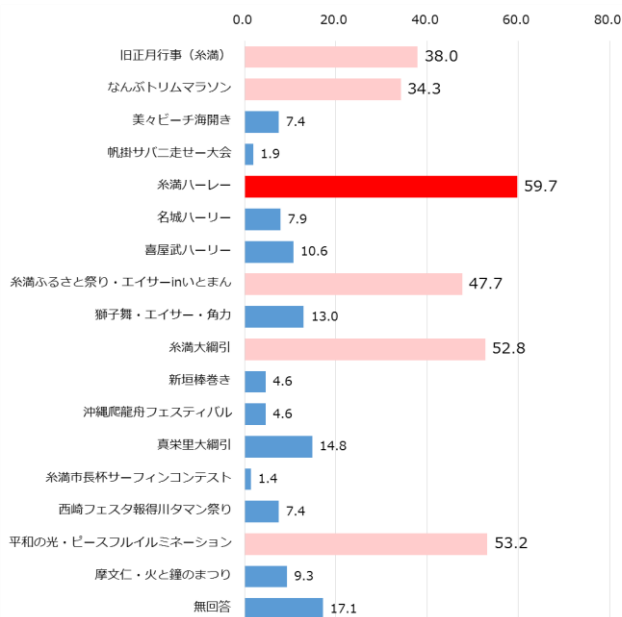
◆資源一覧図



（3）市民の糸満市観光に関する意向等

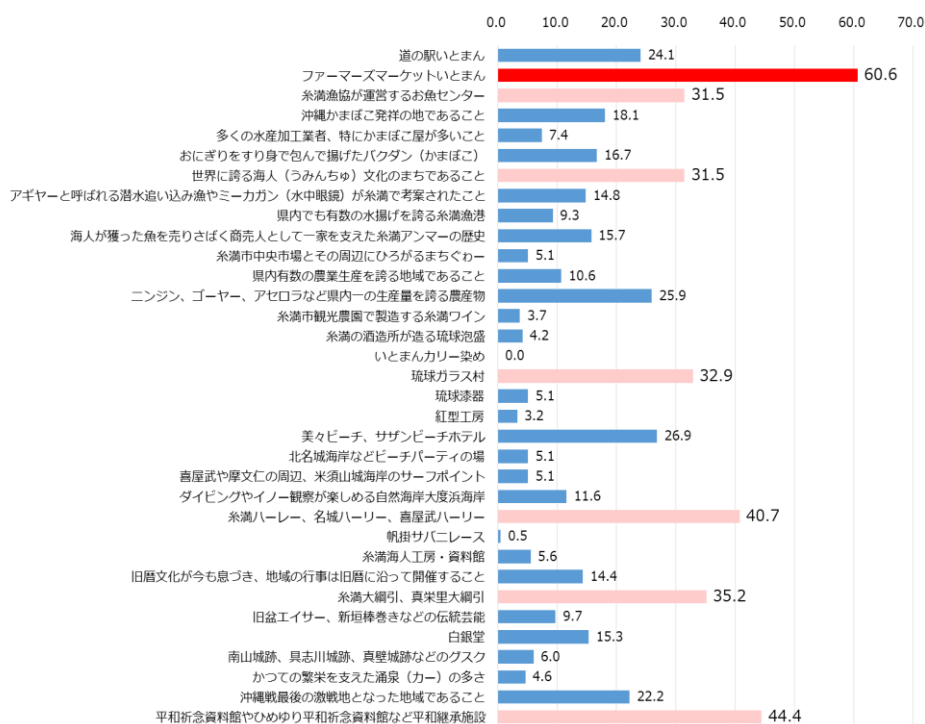
糸満市でのイベント・祭事について参加したことがあるもの

参加したことがあるイベント・祭事として、糸満ハーレーが最も多く、次いで、平和の光・ピースフルイルミネーション、糸満大綱引、糸満ふるさと祭り・エイサーinいとまん、旧正月行事、なんぶトリムマラソンなどが上位に挙げられています。



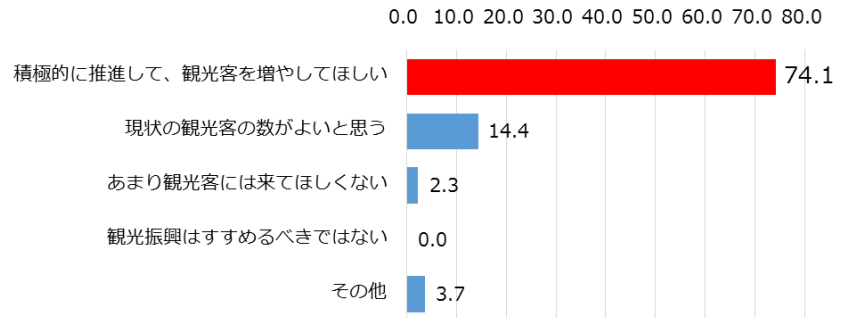
「糸満市の自慢できること・もの」として紹介したいもの

自慢できること・ものとしては、ファーマーズマーケットいとまんが最も多く、次いで、平和祈念資料館・ひめゆり平和祈念資料館、糸満ハーレー・名城ハーリー・喜屋武ハーリー、糸満大綱引・真栄里大綱引、琉球ガラス村、お魚センター、世界に誇る海人文化が上位に挙げられています。



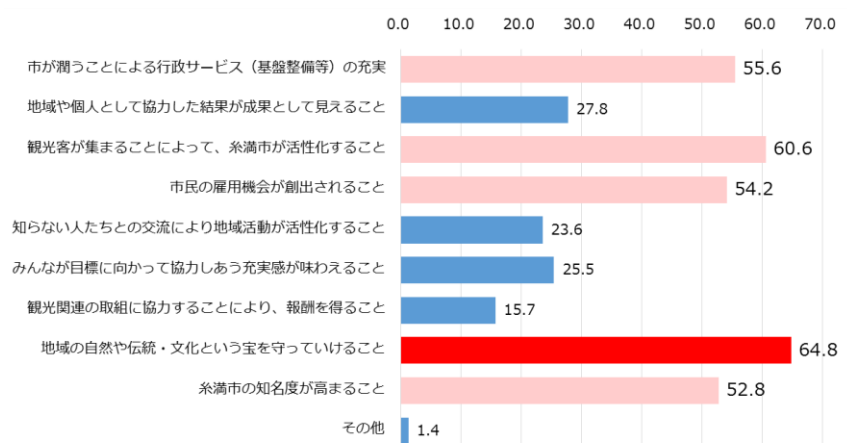
糸満市における観光振興についての考え

観光振興については、積極的に推進して観光客を増やしてほしいという方が、最も多くを占めます。



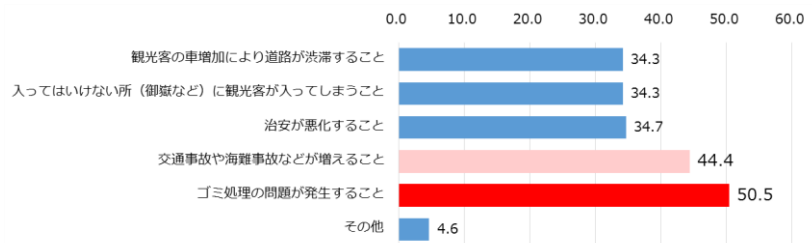
糸満市の観光振興に期待すること

期待することは、地域の自然や伝統・文化という宝を守っていただけることの回答が最も多くを占めます。次いで、観光客が集まることにより糸満市が活性化すること、市が潤うことによる行政サービスの充実、市民の雇用機会創出、知名度の向上との回答になります。



糸満市の観光振興での不安

不安に感じることは、ゴミ処理の問題、交通事故や海難事故の増加が挙げられます。これら不安に対しての対策を講じることが必要となります。



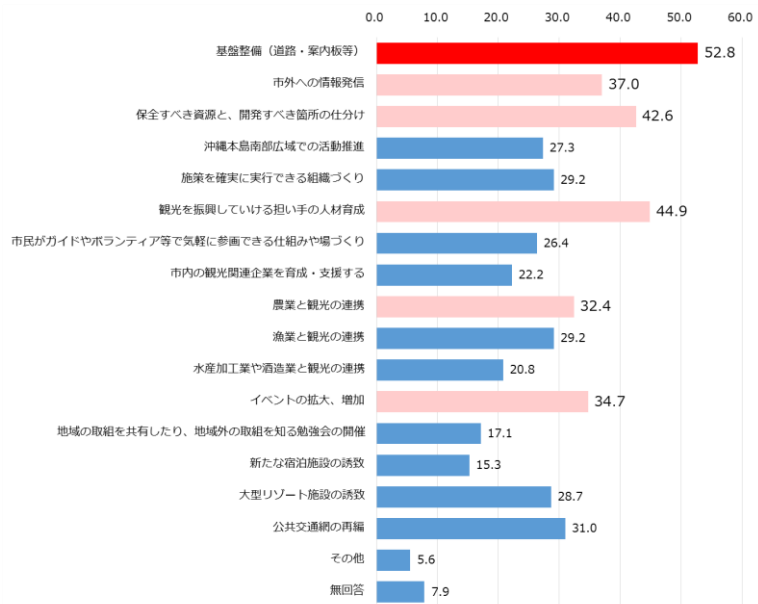
観光振興にあたって、あなたが関わりたいこと、関わるができること

観光振興に関わりたいこととして、市外の知人に糸満市の魅力を発信が最も多く、次いで、観光施設を自らが利用、地域の美化や緑化活動への参加が挙げられています。



今後の糸満市の観光振興のためにすぐ取り組むべきこと

すぐに取り組むべきこととして、基盤整備（道路・案内板等）が最も多く、次いで、観光を振興していける担い手の人材育成、保全すべき資源と開発すべき箇所の仕分けが続きます。そのほか、市外への情報発信、イベントの拡大・増加、農業と観光の連携などが上位に挙げられています。

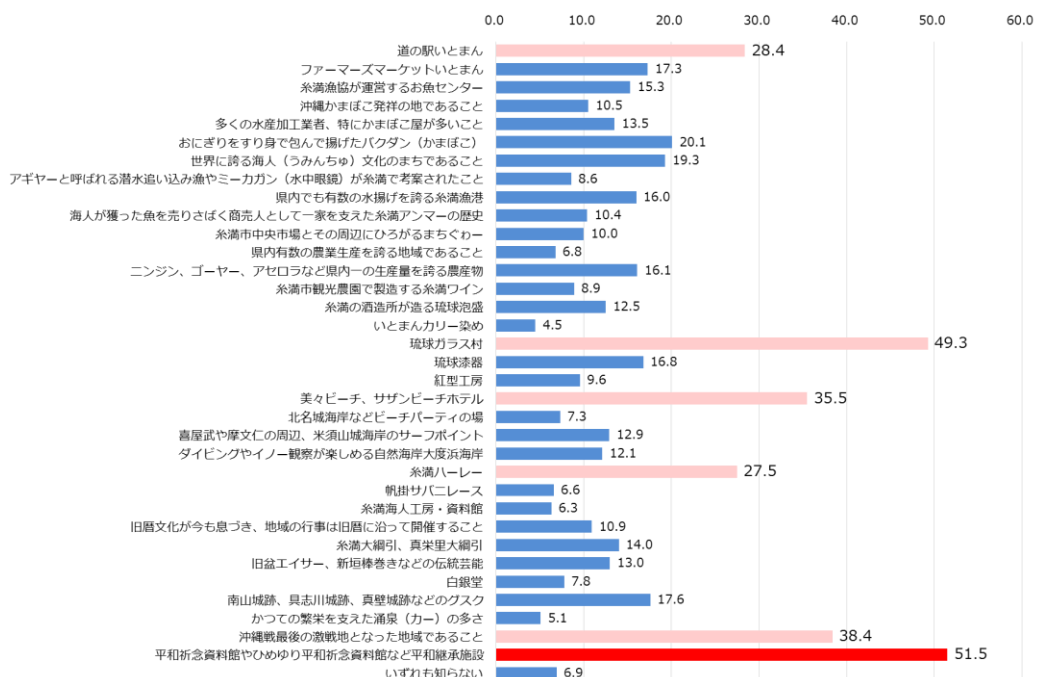


（４）来訪者の糸満市観光に関する意向等

糸満市について知っていること

知っていることとして、平和祈念資料館・ひめゆり平和祈念資料館が最も多く、次いで、琉球ガラス村、沖縄戦最後の激戦地であること、美々ビーチ・サザンビーチホテル、道の駅いとまん、糸満ハーレーなどが上位に挙げられています。

特筆すべきこととして、居住地別では、県内は糸満ハーレー、平和祈念資料館・ひめゆり平和祈念資料館、道の駅いとまん、美々ビーチ・サザンビーチホテル、琉球ガラス村、沖縄戦最後の激戦地であることなどが上位に挙げられ、県外は平和祈念資料館・ひめゆり平和祈念資料館、琉球ガラス村、沖縄戦最後の激戦地であること、美々ビーチ・サザンビーチホテル、道の駅いとまん、南山城跡・具志川城跡・真壁城跡などのグスクなどが上位に挙げられています。



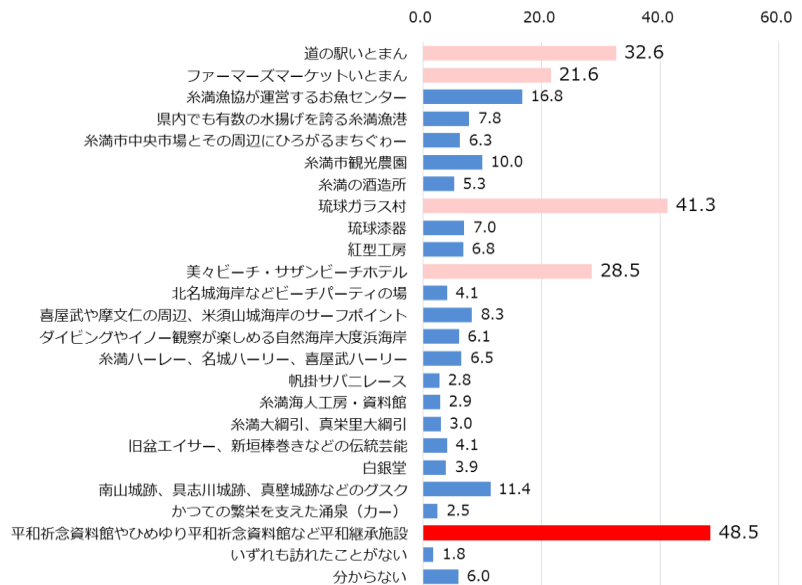
糸満市で訪問したことがあるところ

訪問したことがあるところとして、平和祈念資料館・ひめゆり平和祈念資料館が最も多く、次いで、琉球ガラス村、道の駅いとまん、美々ビーチ・サザンビーチホテル、ファーマーズマーケットいとまんが上位に挙げられています。

特筆すべきこととして、年代別では、10代～20代と50代以上の一位は平和祈念資料館・ひめゆり平和祈念資料館であることに対し、30代～40代の一位は道の駅いとまんとなっています。

また、居住地別では、県内は道の駅いとまん、ファーマーズマーケットいとまん、平和祈念資料館・ひめゆり平和祈念資料館が上位に挙げられ、県外は平和祈念資料館・ひめゆり平和祈念資料館、琉球ガラス村、道の駅いとまん、美々ビーチ・サザンビーチホテルが上位に挙げられています。

さらに、来訪回数別では、二回目の方は湧泉（カー）が一位となっており、二位が糸満の酒造所、三位が紅型工房となっています。



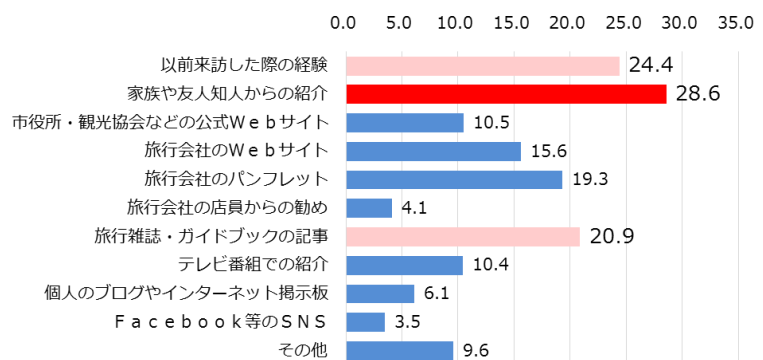
観光・余暇での訪問先として糸満市を選んだ際の情報源

糸満市を選んだ情報源として、家族や友人知人からの紹介が最も多く、以前来訪した際の経験、旅行雑誌・ガイドブックの記事などが上位に挙げられています。

特筆すべきこととして、年代別では、10代～20代の一位が家族や友人知人からの紹介となっており、30代～50代の一位は以前来訪した際の経験となっています。

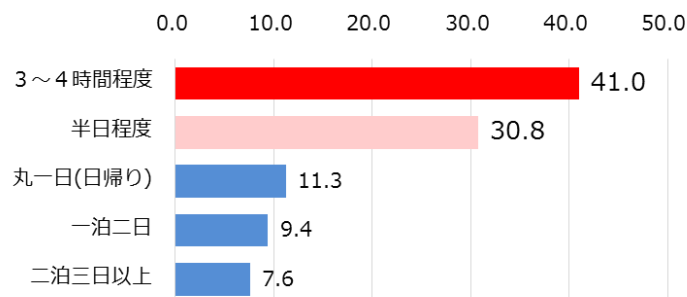
また、居住地別では、県内は以前来訪した際の経験、家族や友人知人からの紹介、テレビ番組での紹介が上位に挙げられ、県外は旅行会社のパンフレット、旅行雑誌・ガイドブックの記事、家族や友人知人からの紹介が上位に挙げられています。

さらに、来訪回数別では、一回目の方は家族や友人知人からの紹介が一位に挙げられ、二回以上の方の中でも家族や友人知人からの紹介は二位と上位に挙げられています。



糸満市での滞在時間

滞在時間として、3～4 時間程度が約 41%、半日程度を合わせると約 72%となり、ほとんどの方が半日以下の滞在時間となっています。



糸満市へのご旅行で、使った概ねの金額

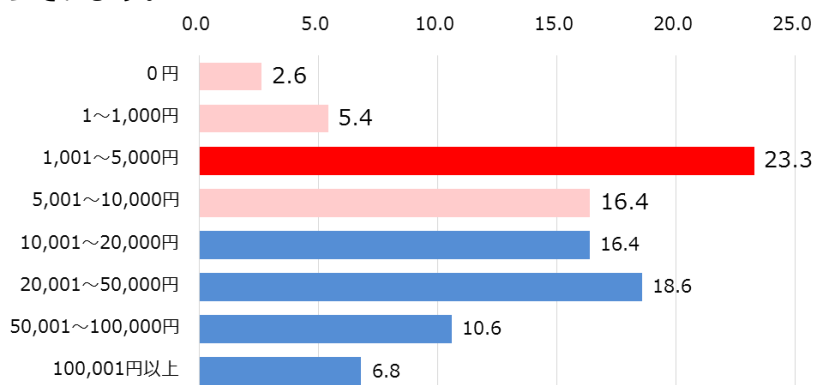
旅行で使った金額として、1,001 円～5,000 円が最も多く、10,000 円以下の方が合計で約 48%となります。

特筆すべきこととして、年代別では、10 代～20 代の一位は 20,001 円～50,000 円となっており、30 代～40 代と 50 代以上の一位は 1,001 円～5,000 円となっています。

また、居住地別では、県内の一位は 1,001 円～5,000 円となっており、県外の一位は 20,001 円～50,000 円となっています。

さらに、来訪回数別では、一回目の一位は 20,001 円～50,000 円となっており、二回と三回以上の一位は 1,001 円～5,000 円となっています。

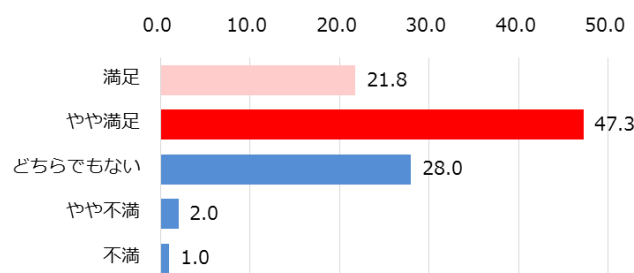
<合計（一人あたりおおよそ）>



糸満市での滞在の総合的な満足度

滞在の満足度として、満足とやや満足を合わせると約 69%となっています。

特筆すべきこととして、居住地別では、県内は約 55%、県外は約 74%となっています。

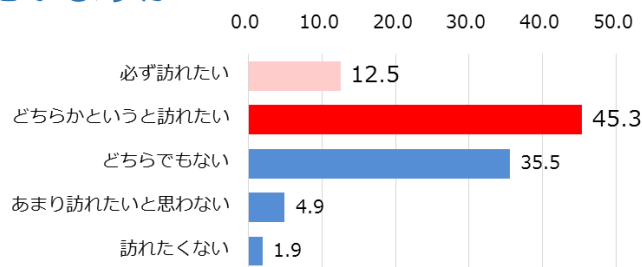


1 年以内に糸満市に再び訪れたいと思いますか？

再度訪れたいかという問いには、どちらかというと訪れたいという方が最も多く約 45%、必ず訪れたいという方は 12.5%と多くない状況です。

特筆すべきこととして、居住地別では、県内は約 61%、県外は約 57%となっています。

また、来訪回数別では、一回は約 87%、二回は約 27%、三回以上は約 57%となっています。



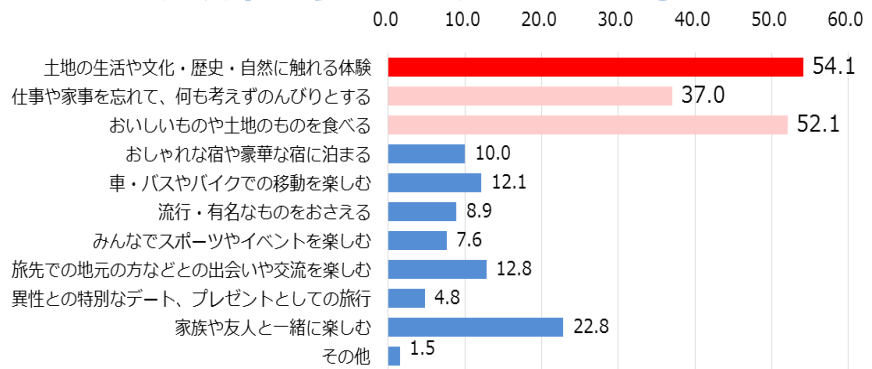
今後、糸満市での過ごし方として、以下から魅力的だと感じるもの

魅力的だと感じる糸満市の過ごし方として、土地の生活や文化・歴史・自然に触れる体験が最も多く、おいしいものや土地のものを食べる、仕事や家事を忘れて何も考えずのんびりとする、家族や友人と一緒に楽しむが上位に挙げられています。

これは、国内旅行に求めることトップ3の結果（1位：おいしいものや地場産のものを食べたい、2位：知らない土地の生活や文化・歴史に触れる体験がしたい、3位：仕事や家事を忘れて何も考えずのんびりしたい）と対応しています。

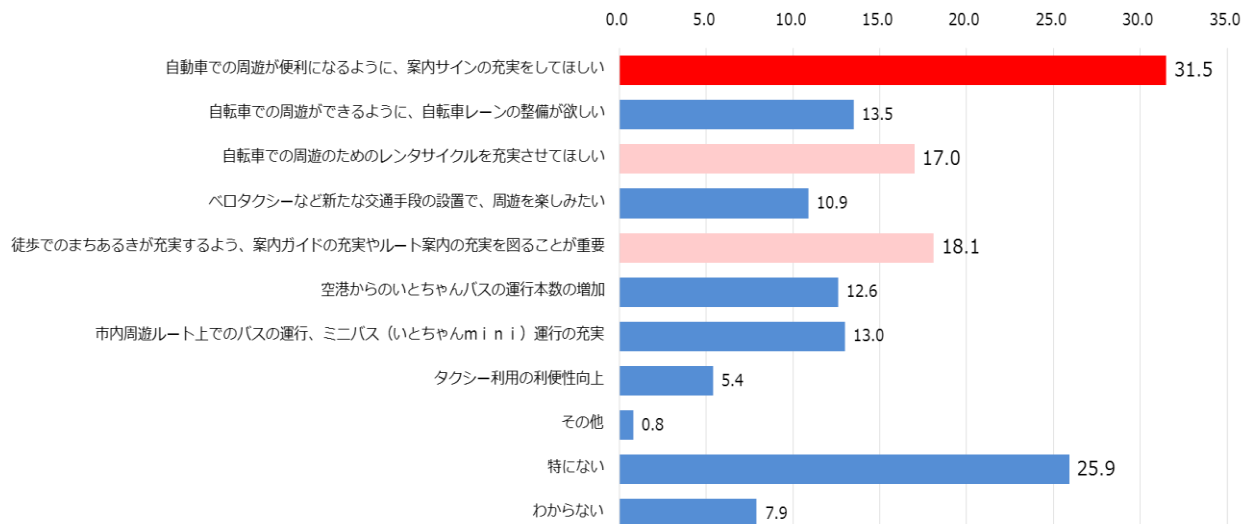
特筆すべきこととして、居住地別では、県内の一位は土地の生活や文化・歴史・自然に触れる体験となっており、県外の一位はおいしいものや土地のものを食べるとなっています。

また、来訪回数別では、一回と二回と三回以上の全てで土地の生活や文化・歴史・自然に触れる体験が一位、家族や友人と一緒に楽しむが二位となっています。



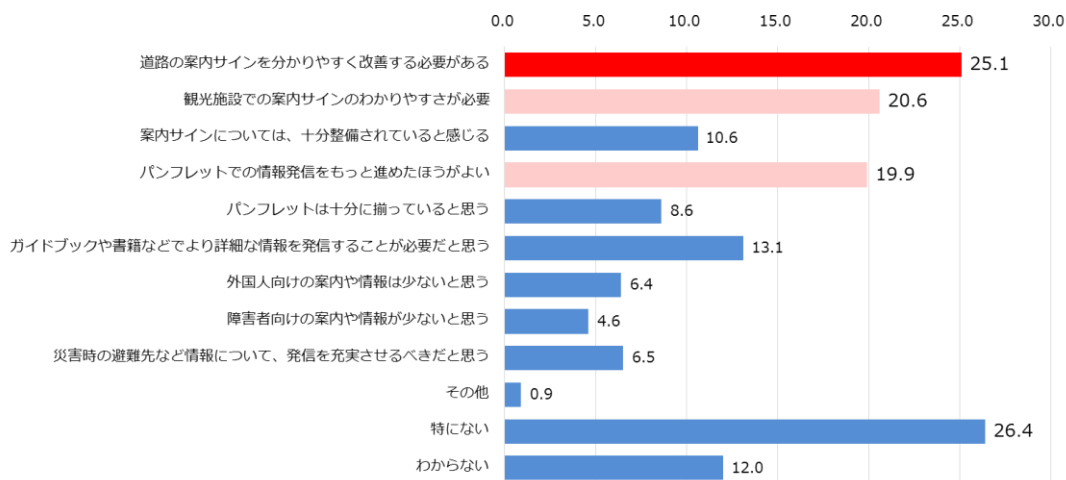
今後の糸満市を訪れる際の、交通について以下より期待すること

交通に期待することとして、自動車道の案内サインの充実が最も多く、次いで、特にないという回答が多く挙げられています。また、これらに次いで、まち歩きのガイドとルート案内の充実、レンタサイクルの充実が上位に挙げられています。



今後の糸満市を訪れる際の、道路や各施設の案内サインや、パンフレット等の情報について以下より課題と感ずることや期待すること

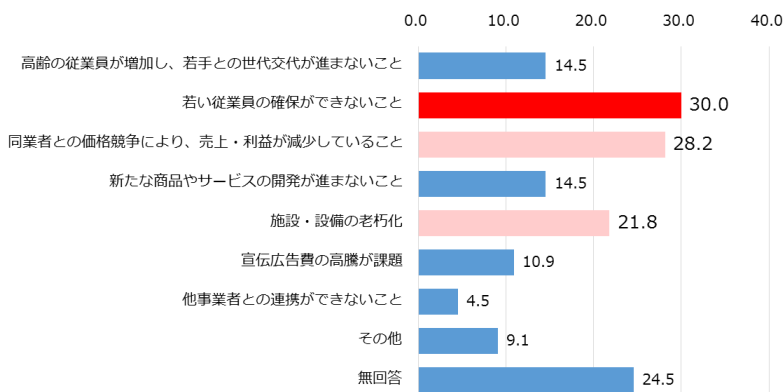
課題と感ずることや期待することとして、特にないとの回答が最も多いですが、道路の案内サインの改善、観光施設での案内サインのわかりやすさ、パンフレットによる情報発信が上位に挙げられています。



(5) 観光関連事業所の糸満市観光に関する意向等

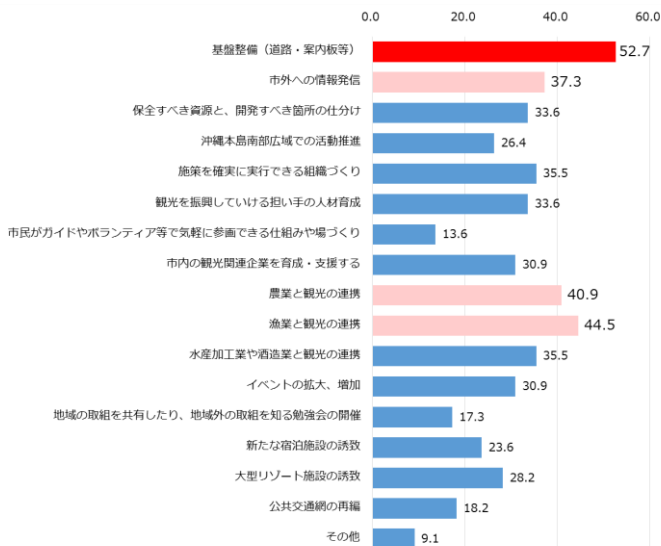
事業所の経営、事業推進について、具体的な課題

事業推進の具体的な課題として、若い従業員が確保できないが最も多く、同業者との価格競争により売上利益が減少している、施設・設備の老朽化などが上位に挙げられています。



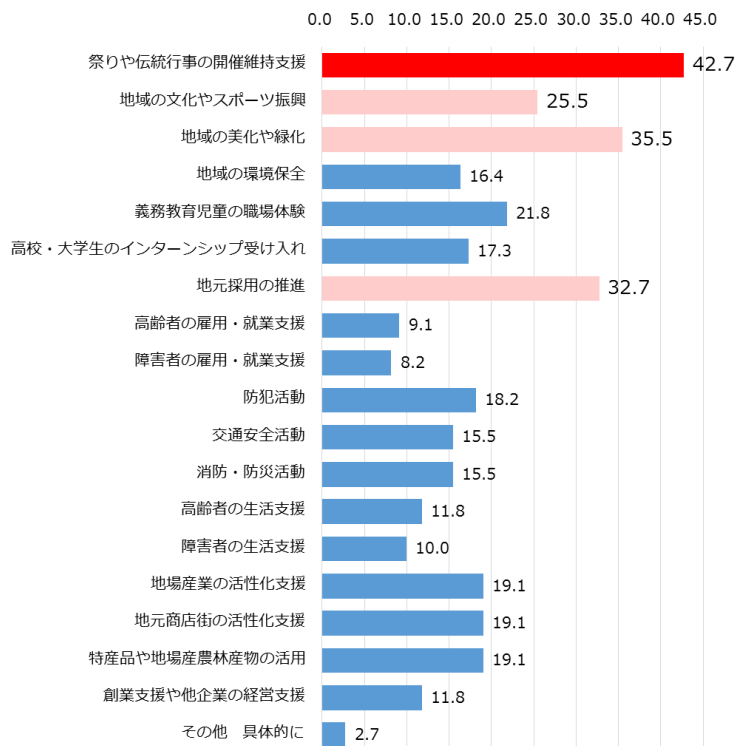
今後の糸満市の観光振興のためにすぐ取り組むべきこと

すぐに取り組むべきこととして、基盤整備（道路・案内板等）が最も多く、漁業と観光の連携、農業と観光の連携、市外への情報発信などが上位に挙げられています。



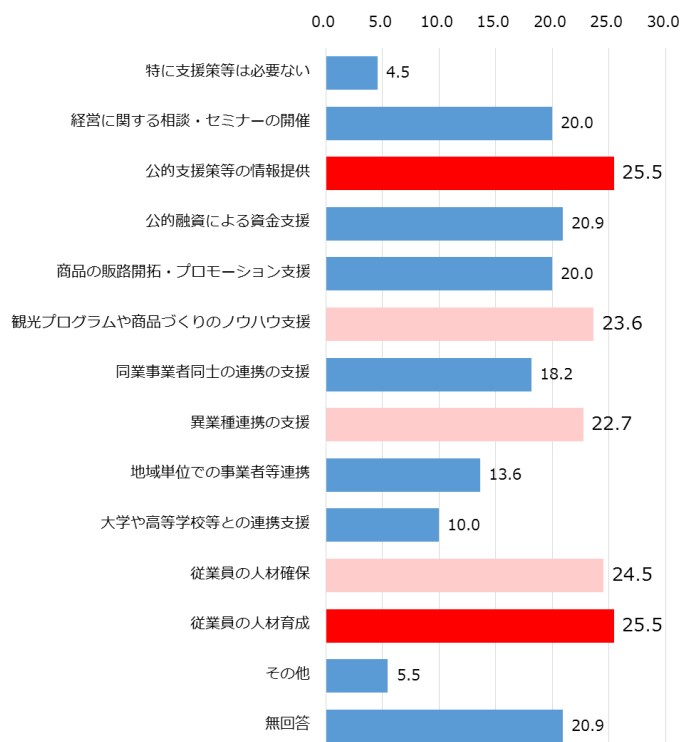
事業所の糸満市における地域活動への参加や地場産業との連携などの状況

地域活動の参加や地場産業の連携として、祭りや伝統行事の開催維持支援が最も多く、地域の美化や緑化、地元採用の推進、地域の文化やスポーツ振興が上位に挙げられています。



今後、糸満市において特に強化・充実すべきと考える観光関連事業所に対する支援策として期待するもの

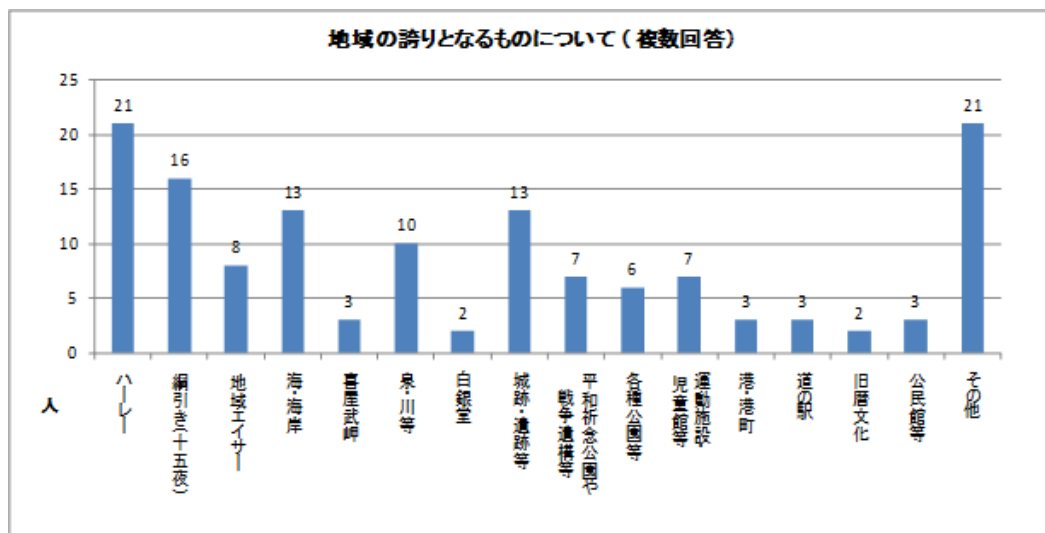
支援策を期待するものとして、公的支援策等の情報提供と従業員の人材育成が最も多く、従業員の人材確保、観光プログラムや商品づくりのノウハウ支援、異業種連携の支援が上位に挙げられています。



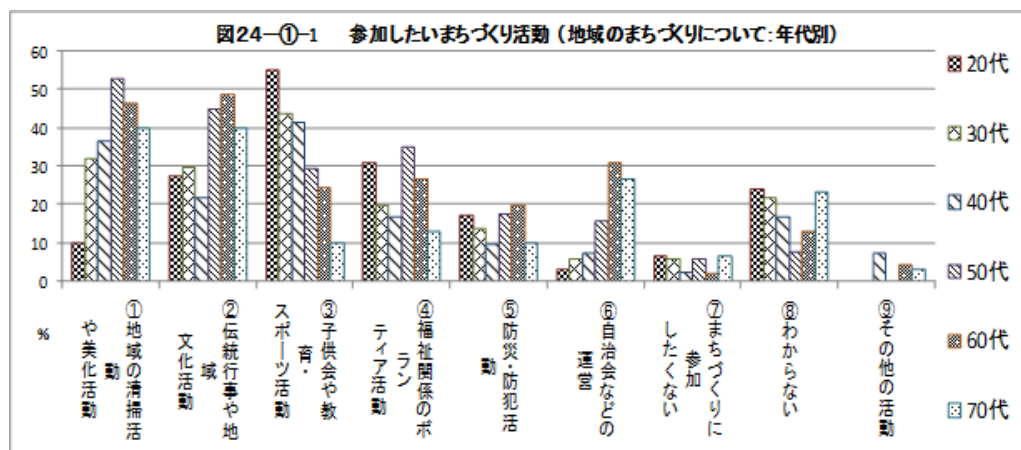
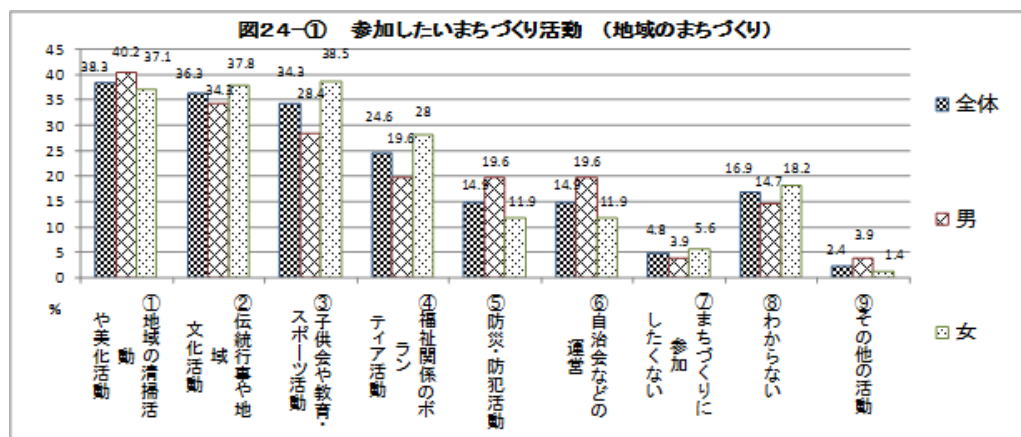
(6) その他、関連計画等でのアンケート調査の結果

平成22年 市民意識アンケート

地域の誇りとして、ハーレーが最も多く、綱引き、エイサー等の伝統行事、城跡・遺跡等の歴史遺産及び海岸・泉や川などの自然景観が上位に挙げられています。



地域のまちづくり活動への参加意識として、地域の清掃・美化活動が最も多く、伝統行事や地域文化活動、子供会や教育スポーツ活動、福祉関係ボランティア活動が上位に挙げられています。



平成 25 年 新しい公共交通検討事業の観光客アンケート

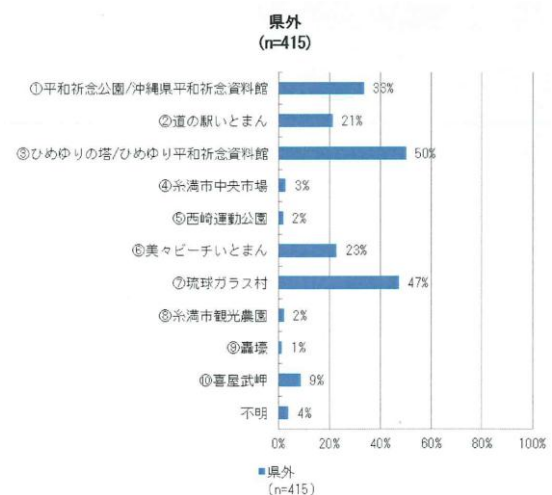
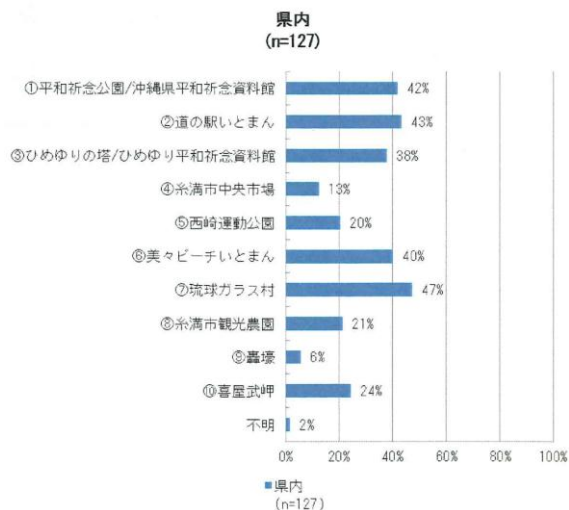
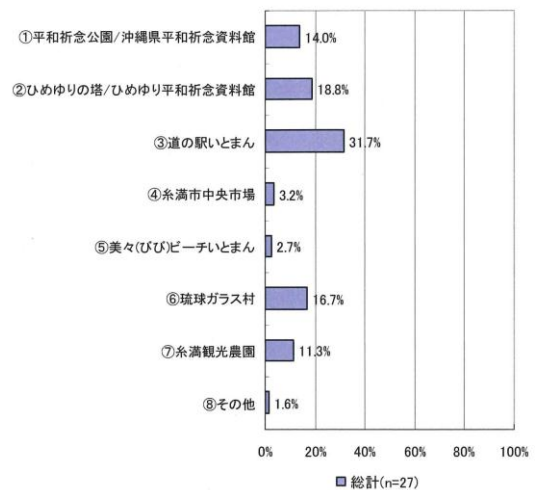
糸満市内の旅行の目的地として、道の駅いとまんが最も多く、ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館、琉球ガラス村、平和祈念公園・平和祈念資料館、糸満市観光農園が上位に挙げられています。

平成 26 年 新しい公共交通検討事業の観光客アンケート

糸満市内の旅行の目的地として、ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館が最も多く、琉球ガラス村、平和祈念公園・平和祈念資料館、美々ビーチ、道の駅いとまんの多さが特徴です。

特に県内客の道の駅いとまん、美々ビーチいとまんの多さが特徴です。

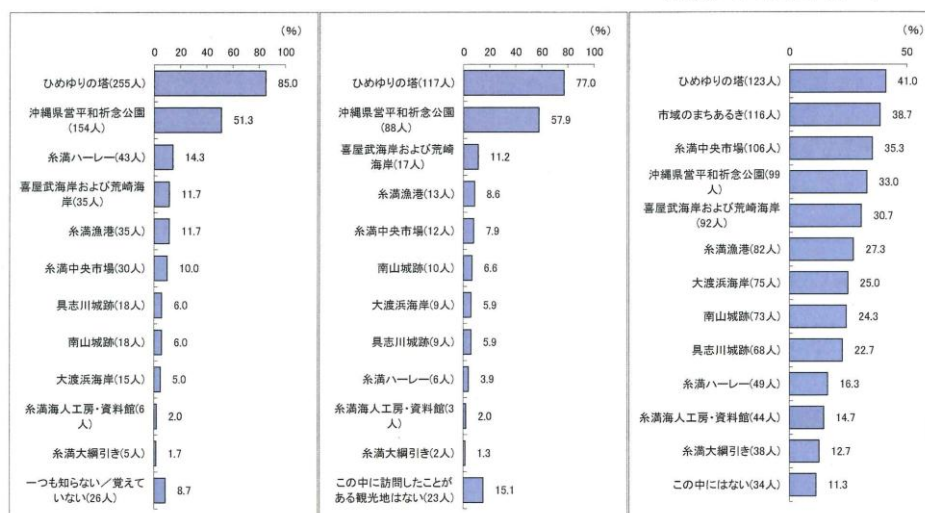
問7. 旅行の目的地(糸満市内)【複数回答】



成 27 年 糸満市文化・平和・観光振興センター計画にかかる観光客アンケート

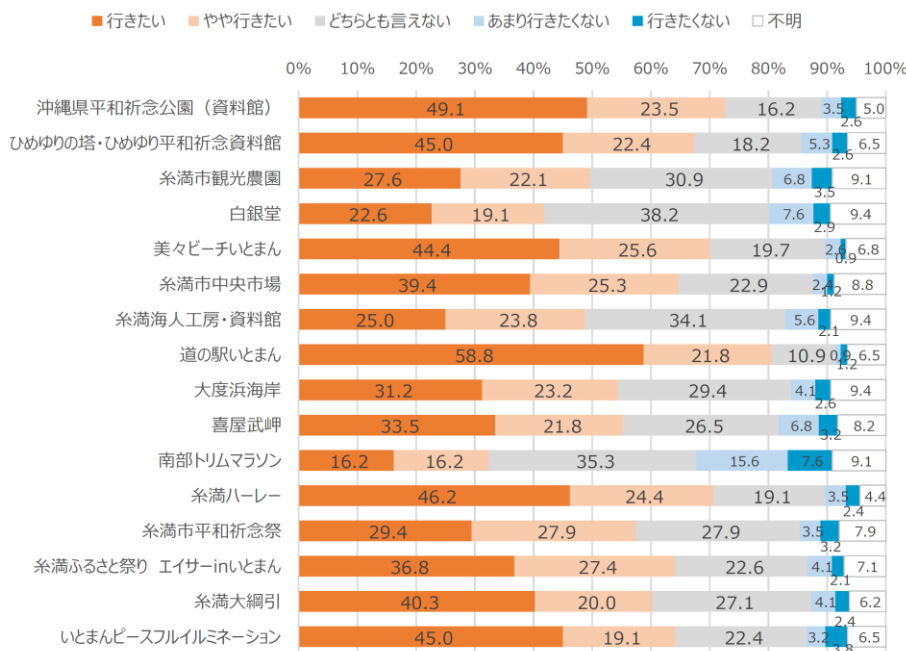
訪れたことがある観光地として、ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館が最も多く、次いで平和祈念公園が挙げられています。他拠点への参加意向はあるものの、参加体験は少ない状況です。

■本市の観光地等の認知 ■本市の観光地等の参加体験 ■新施設と前後して観光(体験)してみたいルート

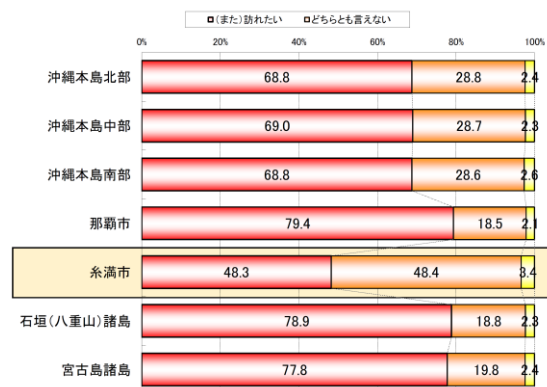
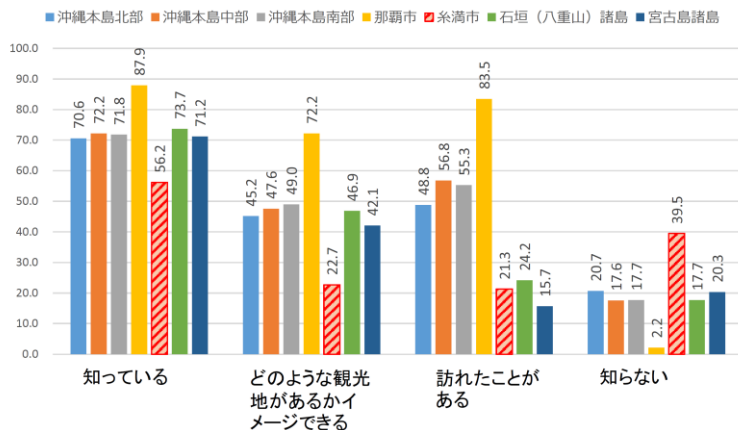


平成27年 戦後70周年祈念関連事業の観光についてのアンケート調査

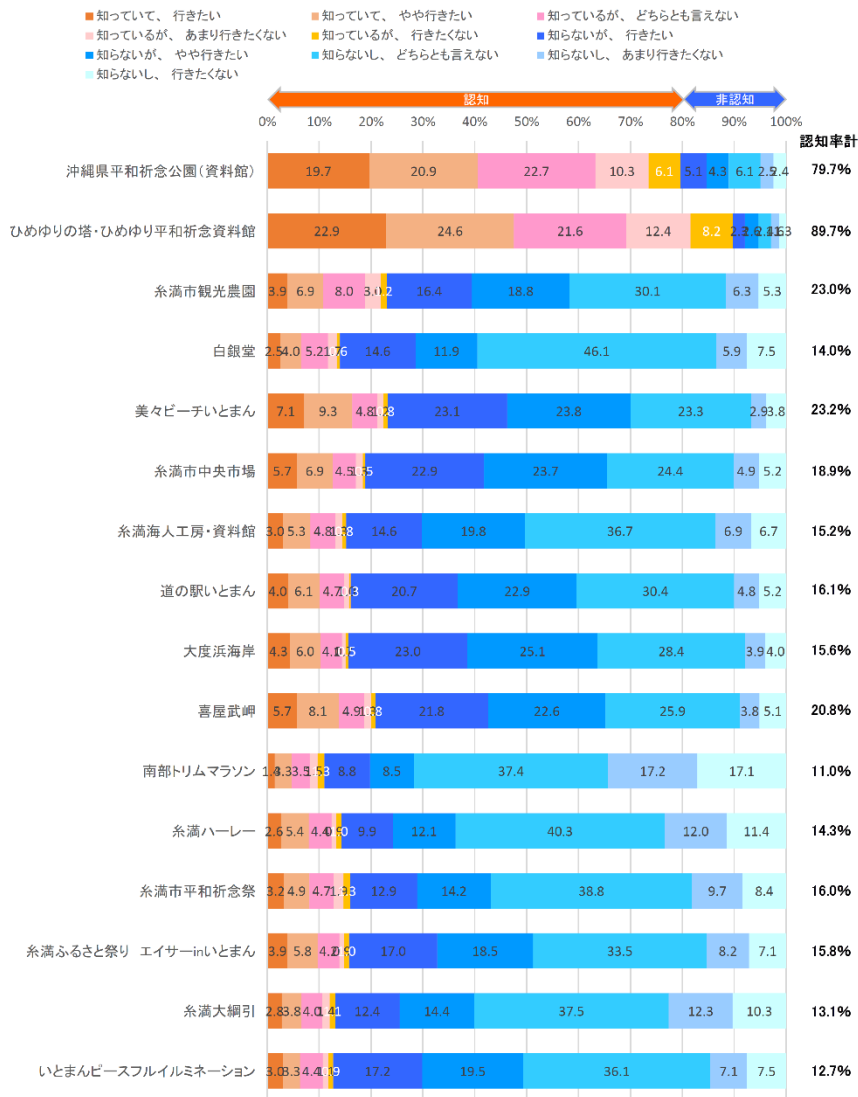
イベント会場アンケート調査においては、行きたいと思う糸満市の観光地・祭り・イベントとして、道の駅いとまんが最も多く、平和祈念公園、糸満ハーレー、ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館、いとまんピースフルイルミネーション、美々ビーチが上位に挙げられています。



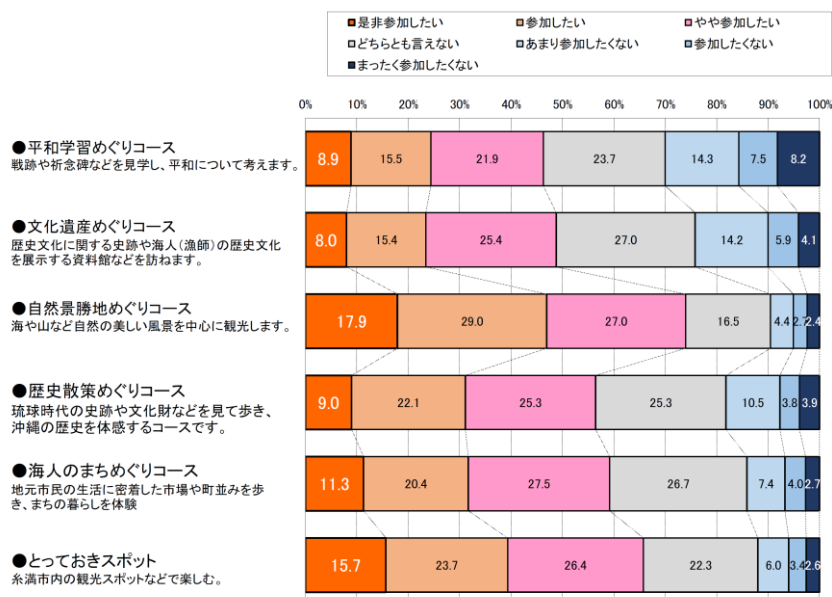
インターネット調査においては、糸満市の認知率は56.2%、イメージ率（観光地がイメージできる）は22.7%、訪問経験は21.3%、再訪問意向は48.3%となっています。



また、行きたいと思う糸満市の観光地・祭り・イベントとして、ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館、平和祈念公園（資料館）が上位に挙げられています。



さらに、参加してみたい観光コースとしては、自然景勝地めぐりコース、とっておきスポットが上位に挙げられています。



(7) 各種意向調査からのまとめ

市民の糸満市観光に関する意向

特定のイベント・祭事に参加が集中	参加したことがあるイベント・祭事は、糸満ハーレーが最も多い結果となっていますが、回答上位にあげられるイベント・祭事と、その他での回答割合の差が大きく、特定のイベント・祭事に集中している傾向が伺えます。
紹介したい施設はファーマーズマーケット	紹介したいものとして、ファーマーズマーケットなどが上位に挙げられています。
観光振興は積極的な推進を希望、一方で不安もあり	観光振興については積極的に推進してほしいという方が大半を占め、地域の自然や伝統・文化の保全への期待が高い一方で、ゴミの問題や交通事故の問題等の不安もあり、対策が必要です。
市民自らの情報発信、美化・緑化活動には関心 民泊や体験受け入れは今後の課題	観光振興に関わりたいこととして、市の魅力を発信、観光施設を自らが利用、美化・緑化活動参加が上位に挙げられています。その一方で、民泊・農業漁業体験の受け入れは低い結果です。観光まちづくりを進める上では、受け入れについてご理解をいただく必要があります。
市民ガイドやボランティア等の参画の仕組み・場づくりが必要	すぐに取り組むべきこととして、基盤整備が最も多く挙げられています。市民ガイドやボランティア等で気軽に参画できる仕組みや場づくりについて、さらに理解を深める必要があります。

来訪者の糸満市観光に関する意向

伝えたい情報と、観光客に伝える情報にギャップの可能性	市民アンケートでは、紹介したいものとしてファーマーズマーケットが最も多い結果であるのに対し、来訪者アンケートでは、知っているもの・訪問したことがあるところとして挙げられているのは平和祈念資料館・ひめゆり平和祈念資料館が最も多い結果となります。伝えたい情報と、観光客に伝える情報にギャップがある可能性が指摘できます。
家族友人知人からの情報での来訪が多い	糸満市を選んだ情報源としては、どのターゲット層についても、家族や友人知人からの紹介の数が多いという特徴があります。市民が観光振興に関わりたいこととして市の魅力を発信したいという結果が得られましたが、現在でも市民は情報発信を行っていると考えられます。
滞在時間は短く、再来訪希望を高めることが必要	滞在時間は3～4時間から半日程度となっており、再度必ず訪れたい・どちらかというと訪れたいという結果を合わせると約58%となります。この数字を上げていくことが必要です。
体験型観光と食事を求める	今後糸満市での魅力的な過ごし方として、体験型観光と食事が求められている結果となります。
市民や来訪者に届く情報発信が必要	課題や期待することとして、案内サインはレンタカーが増えた結果だと考えられます。また、パンフレットでの情報発信をもっと進めたほうがよいという結果もありますが、これはパンフレットが豊富に用意されていても市民や来訪者に届いていないということが考えられます。

観光関連事業所アンケート

観光振興により経済と雇用の問題を解決することが求められる	事業所の課題としては、人の問題とお金の問題があり、今後観光振興によって、経済的部分と雇用について解決していく必要があると考えられます。
農業漁業と観光の連携への期待が高い	すぐに取り組むべきこととしては、市民と同じように基盤整備が最も多い結果となっているが、農業漁業と観光の連携についても多い結果となっています。
祭りや伝統行事に対しては多くの事業所で支援	地域活動の参加や地場産業の連携として実施されていることは、祭りや伝統行事の開催維持支援が最も多い結果となっています。
公的支援策情報と従業員の人材育成・人材確保、ノウハウ支援を求める	支援策として望んでいることは、公的支援策等の情報提供と従業員の人材育成・人材確保、観光プログラムや商品づくりのノウハウ支援などが上位に挙げられており、新しい事業展開のための道筋を作してほしいという要望があると考えられます。

関連計画等でのアンケート調査の結果

旧暦文化に基づく伝統行事が市民の誇り	市民の誇りとして、ハーレーや綱引き等の伝統行事があげられます。
清掃・美化活動は参加意向が高い	地域のまちづくりへの参加意向として、地域の清掃・美化活動が最も多い結果になります。次いで、伝統行事、教育・スポーツ活動への参加意向も比較的高い結果です。
道の駅は、県内外の観光客で来訪経験に違いあり	訪れたことがある観光地としては、いずれのアンケートでも、道の駅いとまん、ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館、琉球ガラス村、平和祈念公園・平和祈念資料館、糸満市観光農園、美々ビーチなどが上位に挙げられている。ただし、県内外観光客での傾向の違いとして、道の駅の回答に差異がみられます。
糸満市の認知度は低くないが、具体的なイメージができていない	県内他地区に比較して、糸満市の認知度は低くありませんが、どのような地域であるかのイメージはできない・来訪経験がないという方は多い状況です。また、再訪問意向が高くないことが課題であり、対策が必要です。

5 糸満市の観光の課題と可能性の整理

前述した観光をとりまく状況と課題から、糸満市の観光の課題と可能性の整理を行います。

① 平和祈念・平和学習

課題

- ・平和祈念公園やひめゆりの塔には、戦後の慰霊から現在の修学旅行生の平和学習に至るまで、多くの来訪者を得ています。近年は修学旅行生もバスでの大人数移動からタクシーでの移動が増加していることや、県外からの来訪者は変化が少ないものの、県内の来訪者数が減少している状況があります。
- ・戦争の語り部が高齢化し、減少しています。
- ・平和祈念資料館やひめゆり平和祈念資料館とあわせた壕（ガマ）の見学が旅行会社からも求められていますが、安全性の面から壕（ガマ）の利用は限定的です。また、外国人対応についても外国語対応が十分ではないこと、普遍的な平和を考える場としての展示内容の検討が課題です。

可能性

- ・来訪者の多さ、知名度の高さは、糸満市を訪れるきっかけとしては大きな可能性があります。一方で、戦跡のイメージの強さは、マリンレジャーを主目的にする客層等からは敬遠される可能性もあることから、イメージとしての打ち出し方に工夫が必要です。
- ・戦争の語り部が減少している中で、戦後復興の語り部など、ガイドができる方の対象を広げることが考えられます。そのことにより、地域の生活文化を組み合わせた平和学習の可能性が考えられます。



② 自然環境保全と歴史・生活文化の継承保全

課題

- ・自然資源、歴史・生活文化を多く有するものの、隠れた資源として、一般の観光客の目の届かないところにあることが多いことから、アクセスしやすい情報が必要であることや、ガイド体制の充実が必要です。
- ・地域の生活とともにある資源であることから、その文化歴史を守るという視点での活用方法の検討が必要です。

可能性

- ・戦跡国定公園として保全されてきた豊かな自然資源（自然保護区）が残されていることから、自然環境を学び・守るプログラムの展開が可能です。
- ・生活空間の文化的資源（カー、ウタキ、拝所等）、各集落に残るグスク等の歴史遺産など、市全域に資源が分布することで、回遊性のあるプログラム構築が可能です。



③ 糸満市での食

課題

- ・海人文化のまちとして、水産資源は豊富に、安定的にあるが、地元であがった新鮮な魚を食べることができる場所が、観光客には伝わっていない現状があります。
- ・県内では有数の農業のまちであることは、対外的にはあまり知られていません。
- ・魅力的な飲食店が立地するものの、その情報が来訪者には十分に伝わっていません。
- ・米須村丸ごと生活博物館の取り組みなどでは、地域の伝統的な食文化、加工品の製造などを体験として実施し、地域の生活を味わってもらうことに取り組んでいます。現在の取組を持続的な取組として進めるとともに、地域住民が主導する観光まちづくりの取り組みの横展開として、市内各地域での独自性ある文化に基づいた食の提供が考えられます。

可能性

- ・お魚センターでの刺身等の販売をさらに拡大・充実させることで、観光客に対しての訴求力を高めることができると考えます。漁港・市場での食堂展開は来訪者が求める内容であるとともに、海人のまち糸満としての大きな売りとなるものです。
- ・水産物、農産物ともに、市内の飲食店でのより一層の利活用が、観光客に対して、糸満の食の魅力を高めるきっかけになります。県外客だけでなく、県内客に対しても糸満の魚と野菜というブランド価値を高める取り組みになることが期待できます。
- ・各地域にある独自の郷土料理や加工食品などは、沖縄料理というジャンルからさらに一歩進んだコアな層にも訴えかける内容として、非常に可能性があります。



糸満市地場産品推奨キャラクター いとちゃん

④ 宿泊滞在型観光の展開

課題

- ・大型のリゾートホテルが立地することから、宿泊客は増加しています。しかし、一軒の大型ホテルでは宿泊者数のさらなる増加は難しい状況です。現在の来訪者の多くは那覇や中北部のリゾートホテルに宿泊した方がであることが考えられ、飲食等での観光収入の面からは、夜の滞在人口の少なさが課題です。
- ・民泊事業を実施し、現在年間で 3500 人程度の修学旅行生を受け入れており、今後さらなる増加に向けた受け入れ態勢の強化が必要です。

可能性

- ・リゾートホテルの誘致を進めるとともに、市内大型ホテル宿泊者の夕方から夜の過ごし方を提案すること、中小のホテル・民宿の魅力向上を図ることで、各宿のファンをつくることに可能性があると考えます。
- ・また、民泊においても、糸満の文化を伝える手段として、修学旅行生だけでなく、今後大人の民泊、外国人の民泊の展開や、民泊ビジット（宿泊せずに体験と食事を実施）の展開についても考えられます。



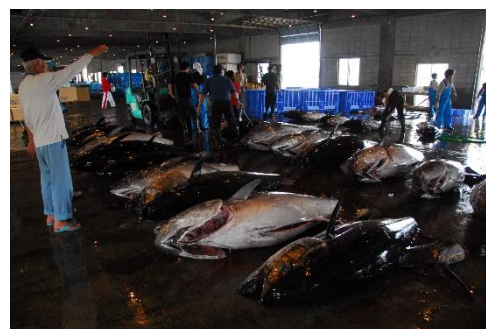
⑤ 農・林・水産業の展開

課題

- ・海人文化のまちとして、県内唯一の第3種漁港を有することから、水産資源は豊富ですが、近年の漁業形態の変化により、大型漁船によるマグロ・イカの水揚げは豊富にありますが、近海魚（タマン、マチ類など）の水揚げは限定的な状況です。漁業体験の実施については、釣り船はありますが、規模としては少ない状況です。
- ・県内では有数の農業のまちであることは、対外的にはあまり知られていません。豊富な農産物や農地の風景が資源になります。一方で専業の農家においては、農業体験を実施する農家はなく、体験として観光との連携を図ることは今後の課題です。

可能性

- ・水産業については海人工房、第3種漁港、公設市場、水産業振興センターなどの関連施設を活用した糸満の海人文化、漁業を知るプログラム、糸満の魚に対してブランド価値をつける施策が考えられます。
- ・糸満市観光農園（うちなーファーム）での農業体験や沖縄県農業研究センターとの連携による、沖縄・糸満の農業を学ぶプログラム構築も考えられます。



⑥ 商・工業の展開

課題

- ・西崎地区を中心に食品産業等工場の立地がありますが、観光客にとっては工業地域の風景は観光的ではなく、そこで何が作られているかを知る機会は少ない状況です。
- ・商業についても、西崎、潮平地区での商業店舗の立地はありますが、非日常・異日常を感じることが難しい状況です。独自の雰囲気を持つ、公設市場・糸満ロータリー周辺の旧市街については、活力が低下し、かつての賑わいを体感することが難しい状況になっています。

可能性

- ・工業については、特に食品産業において、沖縄独特の製品を作る現場があることで、工場見学や製造体験などの可能性が考えられます。泡盛やかまぼこなど沖縄独自の文化に根付いた製品として、県内外客および外国人の来訪も期待できます。
- ・商業については、道の駅には農水産物、土産物の消費拠点があることから、そこでの更なる商品の魅力向上に取り組むことにより消費拡大への可能性が考えられます。
- ・また、公設市場・糸満ロータリー周辺の雰囲気を活かした商業店舗の立地、那覇のホテルとの交通の確保、飲食店舗の魅力向上による夜の滞在客増加の取り組みにより、飲食店の売り上げ向上の可能性も考えられます。



⑦ 体験プログラム構築と誘導ルートの設定

課題

- ・多数の資源やプログラムがあるが、単発での実施が主となっており、それらを有機的につなぐ必要があります。
- ・来訪者の目線での利用しやすい、話題性がありメディアでの露出が期待できることなど、戦略的にプログラムの構築を図ることで、参加者の増加を図ることが必要です。
- ・いとちゃんバスの利用者数増加に向けた、情報発信やアクセス性の向上を図ることが重要です。

可能性

- ・那覇空港、那覇市街からの利便が、国道バイパスの整備によりさらに向上していきます。
- ・豊見城・那覇市との相互利用により、いとちゃんバスの利用拡大が考えられるとともに、八重瀬、南城方面へのバスルートの拡充にも可能性があります。
- ・沖縄滞在最終日の午前中の過ごし方の提案（レンタカーの乗り捨て事業等）についても、今後の可能性として検討の余地があります。
- ・海人文化、南山の歴史と農業の資源、旧暦文化に基づく伝統行事など、ストーリー性あるプログラムの構築が可能であり、短時間の体験から、ゆっくりと満喫する体験までの多様性あるプログラム展開が可能です。



⑧ プロモーションおよび体制構築

課題

- ・来訪者には戦跡・平和観光の知名度が高い一方で、市民の発信したい魅力と来訪者が知る拠点やイベント等とのギャップが存在します。
- ・各プログラム、過ごし方の提案にターゲットを想定した効果的・効率的なプロモーションが必要です。
- ・現在複数あるパンフレット等の効果的な活用を図ること、観光協会等のウェブサイトや SNS での情報発信の充実等、手軽にアクセスしやすい情報の整備が必要です。
- ・観光入込客数や観光売上げ、メディア露出など、定常的なマーケティングデータの収集が十分ではありません。

可能性

- ・地名としての「糸満」の知名度の高さは活かすことができます。
- ・集客力のある施設として道の駅や琉球ガラス村、平和祈念公園などからの発信や、糸満市文化・平和・観光振興センターの整備による情報の一元化で効果的なプロモーションの可能性が高まります。
- ・今後はさらに SNS の活用や、特に市民による発信の強化策に誘客拡大の可能性があると考えます。

⑨ 交通・情報インフラ、防災

課題

- ・那覇－糸満間の国道バイパスの全面開通による交通アクセス機能の向上が期待されることから、観光客が那覇空港から直接本市を訪れ、市域を回遊できる新しい公共交通の整備が必要です。
- ・来訪者からは、道路の案内サインの充実が求められること、レンタカー客の増加により道路の渋滞などが課題に挙げられていることから、渋滞の軽減を図るためのパークアンドライド施策等の検討が必要であると考えます。
- ・台風時の対策や、地震、津波、高潮などの際の避難計画や、各施設やプログラム運営時の事故予防、事故時の対応など、観光来訪者を対象とした安全対策が必要です。

可能性

- ・集客力のある道の駅、琉球ガラス村、平和祈念公園、糸満市観光農園などが拠点となり、市内情報だけではない広域の情報発信拠点となることで、効果的・効率的に来訪者へ情報を伝えられる可能性があると考えます。また、計画中的糸満市文化・平和・観光振興センターの整備により、さらに情報発信力が高まることが期待されます。
- ・ICT の活用促進に向けて、公衆無線 LAN 環境の提供やウェブサイトの多言語化等により、ウェブサイト等での情報発信充実とあわせて外国人旅行者のインターネットアクセスの容易化の推進を図ることが可能となります。



⑩ スポーツツーリズム・MICE 観光等の推進

課題

- ・スポーツキャンプの受け入れは継続的に実施していますが、今後さらに受け入れを充実させるためには、スポーツ施設の計画的な整備活用、受け入れ体制の強化が必要です。
- ・MICE 等の受け入れに向けて、糸満市文化・平和・観光振興センターの整備とその運営・プロモーション方策が必要です。

可能性

- ・スポーツ施設の整備と受け入れ体制の充実により、スポーツキャンプ受け入れ拡大が期待できます。また、糸満市文化・平和・観光振興センターの整備に伴い、中小規模の MICE 観光の誘致にも期待ができます。
- ・本市の環境を活かしたエコスポーツやマリンスポーツ、ヘルスツーリズムなど、新たなスタイルの観光受け入れにも可能性があります。
- ・与那原町・西原町に整備予定の大型 MICE 施設との連携による、中小規模会議の誘致、近接性を活かしたアフターコンベンションの実施に可能性があります。



⑪ 外国人観光客や障がい者・高齢者等受け入れ体制構築

課題

- ・外国人観光客が急増しているものの、受け入れの体制、外国人対応の案内等に課題があります。言語の面や文化の面での対応について検討する必要があります。
- ・障がい者や高齢者を受け入れるための施設・人材の拡充にも課題のある個所が散見されます。ユニバーサルデザインの視点から、施設のデザインについても改めて検討する必要があります。

可能性

- ・外国人観光客の受け入れ環境の整備により、現在十分に糸満市を満喫できていない外国人からの、飲食や物産、宿泊等の売り上げの面での効果を期待できます。
- ・那覇空港や那覇市からの近接性は、障がい者や高齢者等行動に制約の可能性のある方々に対する訴求力を持ちます。ユニバーサルデザインの視点での施設整備改修、受け入れ環境を整備することにより、新たな観光のターゲットとなる可能性を有します。



⑫ 南部広域市町との連携推進

課題

- ・南部広域での観光振興の枠組みはあるものの、近年は活用し切れていない状況です。
- ・南部広域観光協会を活かした観光誘客の取組の持続・拡大が課題です。相互での情報発信や、来訪者受け入れの調整が進んでいない状況です。

可能性

- ・周辺市町との連携により南部広域での過ごし方の提案として、相互補完関係を持つプログラムの構築が可能です。対外的なプロモーションを実施するにあたって、広域で多様性のあるプログラム提案ができることは有効です。
- ・民泊や地域単位での観光まちづくりの取り組みについても、他市町の地域間での人的交流により、活動の活性化の可能性が考えられます。



⑬ 各地域での観光まちづくり体制構築

課題

- ・現在推進されている、米須、大里の取り組みを持続するための体制・仕組みの構築が必要です。最大の課題は、担い手の確保、動機づけであると考えます。
- ・また、市内他地域へ展開するための方策、人的推進体制の構築が必要です。

可能性

- ・米須、大里での取り組みを契機としての観光まちづくりの機運の高まりがあります。
- ・各集落での観光まちづくりの取り組みが可能な歴史・文化の蓄積があります。旧暦文化が色濃く残る地域としての独自性が、コアな層に訴求する可能性をおおいに有しています。
- ・住民が楽しめる施策の展開により、持続性を高め、来訪者にとっても魅力が高まることが重要であると考えます。



⑭ 観光人材の育成

課題

- ・観光の魅力向上のためにも、平和ガイドや街歩きガイドの担い手の確保育成が必要です。特に平和ガイドについては戦争経験者の高齢化が進む中で、戦後復興の語り部を含む新たな枠組みを検討することも必要です。
- ・生業としてのコーディネーターやガイド実施が困難であることから、収益性を持つプログラムの構築と、ガイド人材の活躍の場の創出が必要です。



可能性

- ・豊富で多様な資源があること、市民の糸満市の資源・文化に対する思いがあることを背景に、仕組みが構築できれば、人材確保の可能性はあります。
- ・戦後復興の語り部の育成により、戦争とその後の復興、地域の生活文化を関連させたガイド・体験が可能になります。



⑮ 観光地域としての空間形成

課題

- ・地域で実施する美化活動が観光客に見えていない状況があります。
- ・道路の景観が管理されていない状況も見受けられます。
- ・糸満ならではの風景づくりとして、糸満ロータリー・公設市場周辺の雰囲気の利用、新市街地での雰囲気づくりが重要です。
- ・観光施設や飲食店、小売店等の店舗演出がお客さんへのもてなしを十分に感じさせないところが見られます。



可能性

- ・市内には沖縄らしい赤瓦が残る集落や、カーなど糸満ならではの生活文化を背景とした風景が多く残ります。これら、今ある風景を活かす演出により、来訪者にとって魅力的な風景をつくることができます。
- ・風景づくり計画での取り組み推進（ジョーグワー周辺など）とともに、電照菊の風景や新市街地での空間演出により、新たな魅力創出の可能性を有します。

